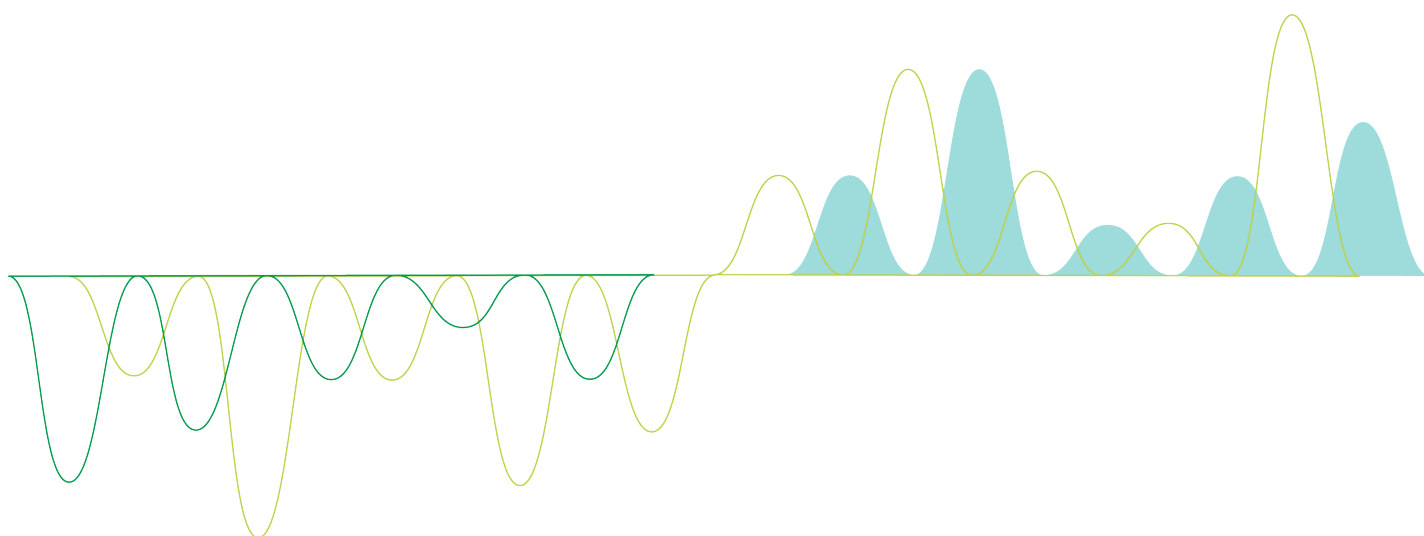


Qlik Senseでのコラボレーション

Qlik Sense®

June 2019

Copyright © 1993-2019 QlikTech International AB. All rights reserved.



© 2019 QlikTech International AB. All rights reserved. Qlik®, Qlik Sense®, QlikView®, QlikTech®, Qlik Cloud®, Qlik DataMarket®, Qlik Analytics Platform®, Qlik NPrinting®, Qlik Connectors®, Qlik GeoAnalytics®, Qlik Core®, Associative Difference®, Lead with Data™, Qlik Data Catalyst™, Qlik Associative Big Data Index™ and the QlikTech logos are trademarks of QlikTech International AB that have been registered in one or more countries. Other marks and logos mentioned herein are trademarks or registered trademarks of their respective owners.

1 本書について	6
2 データストーリーテリング	7
2.1 ストーリー	7
2.2 スナップショット	7
2.3 ライブデータシート	8
2.4 スナップショットを使用したストーリーのインサイトの収集	8
スナップショットの取得	9
スナップショットの表示	9
スナップショットの削除	10
2.5 スナップショット ライブラリを使用したストーリーのインサイトの選択	10
スナップショット ライブラリのスナップショットの閲覧	10
スナップショット ライブラリでの注釈の編集	10
スナップショット ライブラリからのスナップショットの削除	11
2.6 ストーリーの構築	12
ストーリーを用いた作業	12
スライドでの作業	15
2.7 説得力のあるストーリーの作成	20
強調の追加	20
テキストと図形を使用したスタイル	22
スライドへのブックマークの追加	25
スライドへの画像の追加	25
スライドへのリンクの追加	26
スナップショットの外観の変更	27
2.8 ストーリーのプレゼンテーション	29
ストーリーの再生	29
スナップショットの生データへのアクセス	31
スライドからシートへのアクセス	31
ライブデータシートでの選択	31
2.9 トラブルシューティング - データストーリーテリングの使用	32
ストーリーを編集できません	32
シートが見つからない	33
スナップショットの外観を変更できない	33
テキストオブジェクト内にリンクを追加できない	33
スナップショットを取得できない	34
ストーリーでスライドの順序を変更できない	34
スナップショット内のデータがビジュアライゼーション内に存在しない	34
3 公開	35
3.1 公開のワークフロー	35
3.2 Qlik Sense Enterprise ストリームへの公開	36
ストリーム	37
シートとストーリー	37
アプリの操作	39
ハブからのアプリの公開	40
ハブからのアプリの再公開	41

アプリのプロパティの管理	41
シートの公開	42
シートの公開中止	43
アプリのベースシートへのシートの追加	43
アプリのベースシートからのシートの削除	44
ストーリーの公開	44
ストーリーの公開中止	45
アプリのベースストーリーへのストーリーの追加	45
アプリのベースストーリーからのストーリーの削除	46
3.3 Qlik Sense Mobile の Qlik Sense Enterprise ストリームへの公開	46
3.4 クラウド ハブの公開	47
タグ	47
ストリームとタグ	47
アプリをタグ付きでクラウド ハブに公開する場合のベストプラクティスと制限事項	48
タグ付きのクラウド ハブへのアプリの公開	48
コレクションに対するアプリの段階的な公開	51
クラウド ハブからのアプリの段階的な削除	52
3.5 Qlik Sense プラットフォーム間での公開	52
3.6 Qlik Sense の Qlik NPrinting レポート	53
Qlik NPrinting レポートを Qlik Sense に配布する	54
Qlik NPrinting 内の Qlik Sense アプリに接続する	55
3.7 Qlik Sense 内の QlikView ドキュメント	55
要件	56
Qlik Sense ハブでの QlikView ドキュメントへのリンクの公開	56
3 クラウド ハブでの他のユーザーとの共同作業	58
3.8 シート、ブックマーク、ストーリーへのアクセス権の付与	58
3.9 共有スペースでのコラボレーション	58
3.10 個人のアプリの共有	58
3.11 シート、ブックマーク、ストーリーへのアクセス権の付与	58
シートを公開する	58
ストーリーを非公開にする	59
3.12 共有スペースで作業する	59
共有スペースを作成する	60
共有スペースへのメンバーの追加	60
共有スペースの名前と説明を編集する	61
共有スペースを削除する	61
共有スペースを利用したアプリの開発と共有	61
共有スペースでのアプリの使用	62
共有スペースでの権限の管理	64
3.13 クラウド ハブでのアプリの共有	66
4 エクスポートと印刷	68
4.1 ビジュアライゼーションからのデータのエクスポート	68
4.2 シートのエクスポート	68
デスクトップデバイス上のシートのエクスポート	68

タッチ デバイス上のシートのエクスポート	69
4.3 ビジュアライゼーションのエクスポート	69
デスクトップ デバイスからのビジュアライゼーションのエクスポート	69
モバイル デバイスからのビジュアライゼーションのエクスポート	70
制限事項	71
4.4 ストーリーのエクスポート	72
PowerPoint のプレゼンテーションとしてエクスポート	72
PDF としてエクスポート	73
4.5 クラウド ハブでのアプリ コンテンツの共有 とダウンロード	73
クラウド ハブでのビジュアライゼーションのダウンロード	74
クラウド ハブでのビジュアライゼーションの共有	74
4.6 トラブルシューティング - エクスポート	75
匿名 ユーザーがアプリデータをエクスポートできない	75
ビジュアライゼーションを画像としてエクスポートできない	75
PDF ファイルに空白文字が含まれる	75
テーブルをエクスポートしたが、合計行が含まれていない	76
シートをエクスポートしたが、データビュー テーブルがビジュアライゼーションに戻った	76

1 本書について

このガイドでは、他のユーザーがコンテンツを使用できるように、データストーリーテリング、公開、エクスポートと印刷などを行う手順を紹介します。

Qlik Sense は、コラボレーションを念頭に置いて開発され、共通理解の作成に役立つツールを提供することで、意思決定を支援して他のユーザーに影響を与えます。

本書は Qlik Sense のオンラインヘルプをもとに作成されています。オフラインでの情報入手や印刷の便宜を図った簡易版のため、すべての情報が掲載されているわけではありません。

help.qlik.com/sense では、オンラインヘルプ、付加的なガイド、その他多くのリソースをご提供しております。

2 データストーリーテリング

データストーリーテリングを使用すると、ディスカッションのサブテーマとして、またはメイントピックとして、データからのインサイトを他の人と共有することができます。

データストーリーテリングの目的は、データディスカバリーをストーリーにすることにあります。重要な要素を強調すると説得力のあるストーリーを構築でき、関係者の意思決定に役立ちます。

データストーリーテリングは、レポートやプレゼンテーション、予備解析などのテクニックを組み合わせ、作成やコラボレーションを可能にします。発見したデータのスナップショットを撮り、スライドで構成されるストーリーに使用できます。スナップショットにはさまざまな効果を適用できます。これにより、データからのインサイトとしてオーディエンスに注目して欲しいものを強調できます。

ストーリーテリング中に、スナップショットのソースに切り替えてライブデータを確認し、質問に回答することができます。これにより、ストーリーを新しい方向に展開し、会話を促したりさらに深いインサイトを得たりすることが可能になります。

スライドにライブデータシートを挿入し、ストーリーを提示しながら選択ができるようにすると、ストーリーテリングがインタラクティブなものになります。

2.1 ストーリー

データストーリーテリングでは、ストーリーを使用して重要ポイントやアイデアをオーディエンスに提示します。ストーリーはスライドのタイムラインとして提示されます。従来のデータストーリーテリング構造 (3幕仕立ての劇、英雄の旅など) を基盤とすることもできます。

こうしたストーリーはアプリ内に組み込まれています。ストーリーはアプリに接続されているため、いつでもライブデータに戻って新しいストーリーや隠れていたストーリーを発見できます。

ストーリーを構築するには、データビジュアライゼーションの時系列スナップショットとライブデータシートを使用して、ストーリーのタイムラインに配置します。

ストーリーに説得力を持たせるには、テキストや図形を追加したり、視覚効果で特定のポイントを強調したり、書式を適用するなどして、ストーリーをよりわかりやすく解説し、目的を明確にします。



Qlik Sense とは別にストーリーを提示したい場合は、エクスポートできます。

2.2 スナップショット

スナップショットは特定の時点でのデータオブジェクトのステート (タイプとデータ) を図示したもので、ストーリーの構築時に使用できます。ユーザーが取得するスナップショットとは、そのステートのコピーのことです。つまり、対応するデータオブジェクトのステートが更新されても、スナップショットの状態が変化することはありません。

スナップショットは、分析中にシート上の個々のオブジェクトをキャプチャします。スナップショット機能により、ユーザーは特定の時点のビジュアライゼーションやデータを保管しておき、後にストーリーテリングに活用できます。それぞれのスナップショットには、元の場所へのブックマークが含まれているため、生データに素早くアクセスできます。

スナップショットの取得では、注釈を作成することができます。注釈はストーリーを構築する際に、スナップショットライブラリ内でスナップショットを見分けやすくする効果があります。ストーリー再生中、注釈は表示されません。



スナップショットのステートと選択内容は、リロードされたデータでは更新されません。スナップショットが取得された時点で存在したデータのみが反映されます。

2.3 ライブ データ シート

ストーリーでライブデータシートを使用すると、ストーリーの再生中にシートの選択を行うことができます。そのため、アプリ自体に移動することなくインサイトを示すことができます。

ストーリーの再生時には、ライブデータシートで選択や選択解除を行うことができます。シート表示でのシートと同じように機能します。



このリセット操作を実行することで、スライドにライブデータシートを挿入した時点の設定にいつでも戻すことが可能です。

2.4 スナップショットを使用したストーリーのインサイトの収集

アプリの全体像を把握するには、インサイトを収集する必要があります。その方法として、ビジュアライゼーションの静的スナップショットを取得します。

スナップショットは特定の時点でのデータオブジェクトのステート(タイプとデータ)を図示したもので、ストーリーの構築時に使用できます。ユーザーが取得するスナップショットとは、そのステートのコピーのことです。つまり、対応するデータオブジェクトのステートが更新されても、スナップショットの状態が変化することはありません。

スナップショットの取得では、注釈を作成することができます。注釈はストーリーを構築する際に、スナップショットライブラリ内でスナップショットを見分けやすくする効果があります。ストーリー再生中、注釈は表示されません。

特定のビジュアライゼーションのスナップショットを取得すると、ビジュアライゼーションのショートカットメニューから[スナップショット ライブラリ]を開くことができます。そこから、どのスナップショットを残し、ストーリーで使用するかを決定できます。また、スナップショットの注釈を変更したり、スナップショットを削除したりすることも可能です。。



ストーリーテリングビューから開いた場合は、アプリ内のすべてのビジュアライゼーションのすべてのスナップショットが表示されます。



スナップショットを取得しようとしているビジュアライゼーションが拡張機能の場合、そのメインスクリプトでスナップショット機能を有効にする必要があります。そのためには、スナップショットのプロパティを `true` に設定します。

スナップショットの取得

シートビューでは、ビジュアライゼーションのスナップショットを取得して、ストーリーに使用できます。

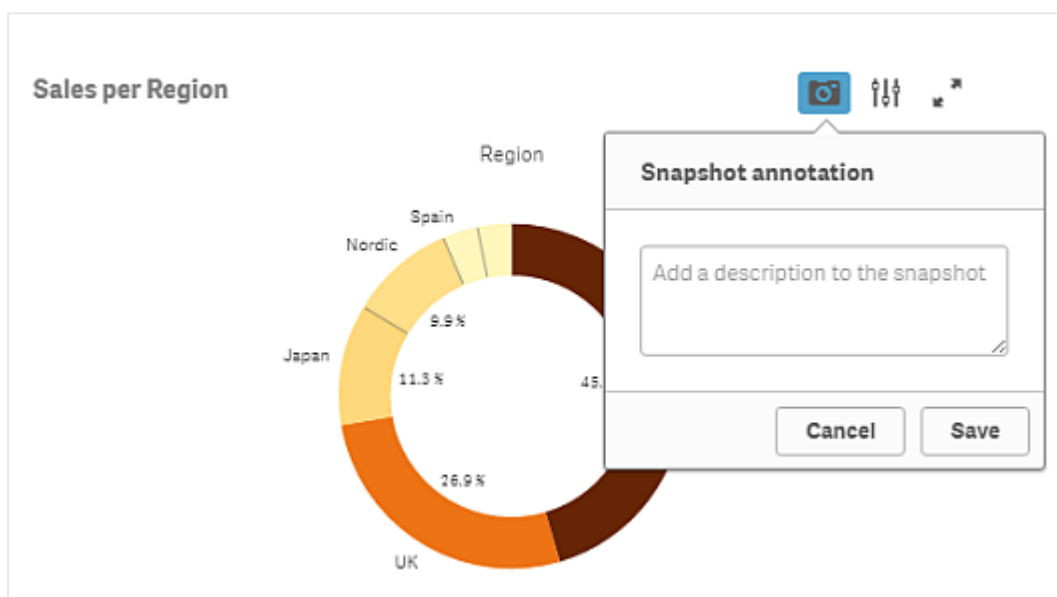
フィルターパネル以外のすべての種類のビジュアライゼーションのスナップショットを取得できます。

次の手順を実行します。

1. シート表示で、スナップショットを取得するビジュアライゼーションにマウスを合わせます。
2. ビジュアライゼーションの右上で  をクリックするか、またはビジュアライゼーションをロングタッチ/右クリックして、.

注釈ダイアログが開きます。

円グラフSales per Region およびスナップショットの注釈のダイアログが開きます。



3. スナップショットライブラリ内でスナップショットを区別できるよう、説明を入力します。
4. **[保存]** をクリック、またはダイアログの外側をクリックしてダイアログを閉じます。
これで注釈が保存されました。

ビジュアライゼーションのタイトルで、スナップショットが保存されます。

スナップショットの表示

次の手順を実行します。

1. 表示したいスナップショットのビジュアライゼーションをロングタッチ/右クリックします。
ビジュアライゼーションのショートカットメニューが開きます。
2. **[スナップショットライブラリを開く]** を選択します。
[スナップショットライブラリ] が開き、ビジュアライゼーションのすべてのスナップショットのリストが表示されま

す。日付スタンプと注釈には、スナップショットを見分けやすくする効果があります。

3. ライブラリの外側をクリックして閉じます。


スナップショットの削除

次の手順を実行します。

1. 表示したいスナップショットのビジュアライゼーションをロングタッチ/右クリックします。
ビジュアライゼーションのショートカットメニューが開きます。



2. [スナップショット ライブラリを開く] を選択します。

[スナップショット ライブラリ] が開き、取得したすべてのスナップショットのリストが表示されます。日付スタンプと注釈には、スナップショットを見分けやすくする効果があります。

3. をクリックして、 [編集] をクリックします。
4. 削除したいスナップショットを選択します。



公開版のアプリに属するスナップショットは削除できません。

5. をクリックして、。
選択したスナップショットが削除されます。
6. をクリックして、 またはテキストの外側をクリックします。
7. ライブラリの外側をクリックして閉じます。



2.5 スナップショット ライブラリを使用したストーリーのインサイトの選択

取得したスナップショットを使用すると、ストーリーに重要ポイントを追加できます。ストーリーテリングビューのスナップショット ライブラリから利用可能なすべてのスナップショットにアクセスできます。

スナップショット ライブラリのスナップショットの閲覧

ストーリーの作業中に、スナップショット ライブラリのスナップショットをすべて閲覧できます。


次の手順を実行します。

1. ストーリー ツール パネルのストーリーテリングビューで  をクリックします。
最新のスナップショットが一番上にくるように、日付でソートされたスナップショット ライブラリが開きます。
2. をクリックして、 スナップショット ライブラリを閉じます。

スナップショット ライブラリでの注釈の編集


スナップショットを取得する際に、注釈を追加できます。またスナップショット ライブラリでは、注釈を変更したり、注釈のないスナップショットに注釈を追加することが可能です。

次の手順を実行します。

1. ストーリー ツール パネルのストーリーテリング ビューで  をクリックします。
スナップショット ライブラリが開き、すべてのスナップショットのリストが表示されます。




ビジュアライゼーションごとにスナップショット ライブラリにアクセスすることもできます。シートビューでビジュアライゼーションをロングタッチ/右クリックし、ショートカットメニューから[スナップショット ライブラリを開く]を選択します。

2.  をクリックして、
3. スナップショット名の右横にある注釈のテキストエリアをクリックします。




公開版 アプリに属するスナップショットの注釈を編集することはできません。

4. 注釈を編集します。
5.  をクリックして、またはテキストエリアの外側をクリックします。
これで注釈が保存されました。
6. ライブラリの外側をクリックして閉じます。

スナップショット ライブラリからのスナップショットの削除


スナップショット ライブラリにはアプリ内で取得したすべてのスナップショットが表示されており、ここでスナップショットを削除することもできます。公開版のアプリに属するスナップショットは削除できません。

次の手順を実行します。

1. ストーリー ツール パネルのストーリーテリング ビューで  をクリックします。
スナップショット ライブラリが開き、すべてのスナップショットのリストが表示されます。





ビジュアライゼーションごとにスナップショット ライブラリにアクセスすることもできます。シートビューでビジュアライゼーションをロングタッチ/右クリックし、ショートカットメニューから[スナップショット ライブラリを開く]を選択します。

2.  をクリックして、
編集が有効になります。
3. 削除したいスナップショットを選択します。



公開版のアプリに属するスナップショットは削除できません。

4.  をクリックします。
選択したスナップショットが削除されます。

5. をクリックして、編集を中止します。
6. ライブラリの外側をクリックします。
ライブラリが閉じます。

これで、スナップショットがライブラリから削除されます。

2.6 ストーリーの構築

ストーリーの目的は、インサイトを収集し、データから説明を構築することです。説得力のあるストーリーを構築します。

そのためには、ビジュアライゼーションのスナップショットを取得してスライドに配置します。スライドを目立たせるため、視覚効果を施し、テキストや図形を追加することができます。また、シートを埋め込んで、ストーリーをインタラクティブにすることも可能です。



ストーリーはアプリに接続されているため、いつでもライブデータに戻って新しいストーリーや隠れていたストーリーを発見できます。

ストーリーを用いた作業

このセクションでは、ストーリーを用いて作業する方法について説明します。例えば、ストーリーの作成、複製、設定変更の方法について説明します。

ストーリーの新規作成

次の手順を実行します。

1. をクリックして、アプリ概要またはシートビューで をクリックしてストーリーを表示します。
2. をクリックして、または [ストーリーの新規作成] をクリックします。
[新しいストーリー] というタイトルの新しいストーリーが作成されます。
3. ストーリーにわかりやすいタイトルを付け、必要に応じて説明も加えます。
4. テキストエリアの外側をクリックして、タイトルと説明を保存します。

これで新しいストーリーが保存されました。

ストーリーの編集

アプリにデータをロードしたら、データを分析して新たなインサイトを得ます。この新たなインサイトは、新しいストーリーとして、あるいは既存のストーリーの更新版として提示することができます。

スナップショットのステートと選択内容は、リロードされたデータでは更新されません。スナップショットが取得された時点で存在したデータのみが反映されます。ただし、ライブデータシートは静的ではないため、データのリロードにより影響を受けることになります。

スライド上のビジュアライゼーションのスナップショットは、アプリのビジュアライゼーションのソースを開くことで、置き換えることができます。ビジュアライゼーションのデータが更新されます。ストーリーに使用する新しいスナップショットを取得できます。

スナップショットの取得では、注釈を作成することができます。注釈はストーリーを構築する際に、スナップショットライブラリ内でスナップショットを見分けやすくする効果があります。ストーリー再生中、注釈は表示されません。



元のストーリーを残したい場合は、編集を始める前に複製を作成しておきます。



Qlik Senseとは別にストーリーを提示したい場合は、エクスポートできます。


ストーリーの複製

ストーリーは、アプリに属するものでも自分で作成したもので、すべて複製できます。ストーリーの複製は、コンテンツを再利用して時間を節約したり、細部を変更してニーズに合ったストーリーを作成するために行います。

複製されたストーリーには、元のストーリーと同じコンテンツが含まれ、同一のスナップショットにリンクされます。ただし、元のストーリーが更新されても、複製されたストーリーには反映されません。複製されたストーリーは、アプリ概要とストーリーナビゲーターの[マイストーリー]に表示されます。


アプリ概要からのストーリーの複製

次の手順を実行します。

1. 左側のをクリックして、アプリのストーリーを表示します。
2. ストーリーをロングタッチ/右クリックします。
ショートカットメニューが開きます。
3. [複製]をクリックします。

新しいストーリーが作成されます。[マイストーリー]に配置されます。








また、ストーリーテリングビューで表示している場合には、ストーリーナビゲーター。

ストーリーのタイトルと説明文の変更

ストーリーのタイトルと説明は、いつでも変更できます。

次の手順を実行します。

1. アプリ概要でをクリックし、ストーリーを表示します。
2. 以下のいずれかを行います。
 - グリッドビューの場合は、ストーリータイトルを選択し、をクリックします。
 - リストビューの場合は、をクリックします。
3. [タイトル]と[説明]を編集します。
4. テキストエリアの外側をクリックします。

変更内容を保存します。










ストーリーのタイトルと説明は、右上にあるストーリーナビゲーターでも変更できます。

ストーリーのサムネイルの変更

アプリ概要およびストーリー ナビゲーターでストーリーを見分けやすくするために、ストーリーの既定のサムネイルを別のサムネイルに変えることができます。サムネイルには、既定の画像のうちの1つを使用することも、独自の画像を使用することもできます。

次の手順を実行します。

1. アプリ概要で  をクリックし、ストーリーを表示します。
2. 以下のいずれかを行います。
 - グリッドビュー  の場合は、ストーリー タイトルを選択し、 をクリックします。
 - リストビュー  の場合は、 をクリックします。
3. デフォルトのサムネイル上にある  をクリックします。
[メディア ライブラリ] が開きます。
4. メディア ライブラリ内の [アプリ内] や [デフォルト] といったフォルダーをクリックします。
5. ストーリーのサムネイルとして使用する画像を選択し、[挿入] をクリックします。
6. 編集を中止するには、 をクリックします。

選択した画像がストーリーのサムネイルとして使用され、ストーリー ナビゲーターとアプリ概要に表示されます。



ストーリーのサムネイルは、右上にあるストーリー ナビゲーターでも変更できます。



サムネイルの最適な縦横比は 8:5 (幅:高さ) です。

次の形式がサポートされています。png、jpg、jpeg、およびgif。

Qlik Sense の場合: メディア ライブラリの [アプリ内] フォルダーに画像をアップロードできます。画像をデフォルトフォルダにアップロードするには、Qlik Management Console を使用する必要があります。

Qlik Sense Desktop の場合: コンピューター上の次のフォルダーに画像を配置できます


C:\Users\



サムネイルを追加または変更できるのは、未公開ストーリーのみです。


ストーリーの削除

次の手順を実行します。

1. アプリ概要で  をクリックして、ストーリーを表示します。
2. 削除したいストーリーをロングタッチ/右クリックします。
ショートカットメニューが開きます。
3. **[削除]** をクリックします。
4. ストーリー削除の確認メッセージが表示されたら、**[削除]** をクリックします。

これでアプリからストーリーが削除されます。



ストーリーは、ストーリーナビゲーター 。

スライドでの作業



ストーリーのスライドは、ストーリーの構成を作成することが目的です。

このセクションでは、スライドの追加や順序の変更、削除などスライドを使用した作業について説明します。また、スナップショットをスライドに追加する方法やスライドアイテムの順序変更、サイズ変更、コピーを行う方法も紹介します。

ストーリーへのスライドの追加

ストーリーにスライドを追加して、ストーリーを拡張します。

次の手順を実行します。



1. アプリ概要またはシートビューで  をクリックしてストーリーを表示します。
2. スライドの追加先となるストーリーをクリックします。
ストーリーがストーリーテリングビューで開き、ストーリータイムラインにスライドのサムネイルが表示されます。
3. ストーリータイムラインで  をクリックします。

新しいスライドが追加されます。スナップショットのように、スライドにコンテンツを追加できます。

スライドへのスナップショットの追加

スナップショットは、**[スナップショットライブラリ]** からスライドに追加できます。

次の手順を実行します。


1. ストーリーテリングビューで、 ストーリーツールパネルの  をクリックします。
[スナップショットライブラリ] が開きます。日付スタンプと注釈には、スナップショットを見分けやすくする効果があります。
2. 追加したいスナップショットを特定し、スライドにドラッグします。
スナップショットがグリッドにスナップされます。キーボードの矢印キーを使って自由に移動させることができます。

これでスライドにスナップショットが追加されます。

ライブデータシートをスライドに追加する

ライブデータシートをストーリー スライドに追加できます。ライブデータシートをストーリーに挿入する場合は、アプリの現在の選択が選択したシートと一緒に保存されます。ストーリーでライブデータシートを表示するときは、常にこれらの選択が適用されます。

次の手順を実行します。

1. ストーリーテリング ビューで、ストーリー ツール パネルにある  をクリックします。
ダイアログが開きます。
2. ストーリーに使用したいシートをクリックします。

新しいスライドにライブデータシートが追加されます。

スライドのライブデータシートを置換する

スライドのライブデータシートを置換できます。

次の手順を実行します。



1. ストーリーテリング ビューで、ストーリー タイムラインにライブデータシートがあるスライドを選択します。
ダイアログが開きます。
2. アクティブなシートをクリックします。
新しいダイアログが開きます。
3. 挿入する新しいシートを選択します。

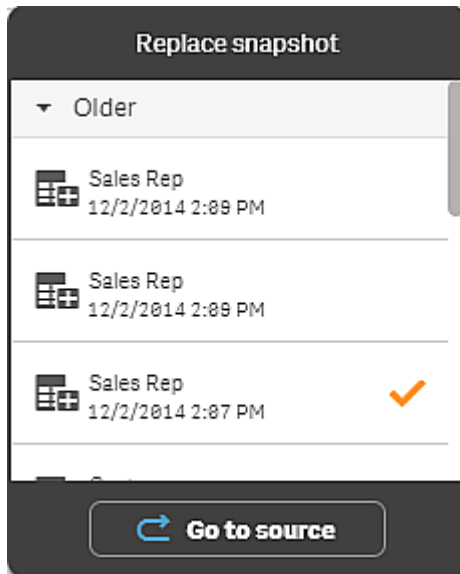
選択されたシートがライブデータシートとしてスライドに追加されます。


スライドへのスナップショットの置換

スライドにあるビジュアライゼーションのスナップショットを置換できます。これは、ビジュアライゼーションの別のスナップショットを使用する場合に便利です(たとえば、ビジュアライゼーションが変更されたまたは新しく選択された場合に、アプリに新しいデータをロードするときなど)。

次の手順を実行します。

1. ストーリーテリング ビューで、スライドのスナップショットを選択して 。
[スナップショットの置換] ダイアログが開き、元のビジュアライゼーションのすべてのスナップショットが表示されます。使用されているスナップショットには、 が表示されます。日付スタンプと注釈には、スナップショットを見分けやすくする効果があります。
スナップショットの表示を Sales Rep スナップショットに置き換えます。



 [ソースの表示] をクリックして、スナップショットの元になっているビジュアライゼーションやシートに移動できます。これによって、スナップショットのライブデータにアクセスして、新規に選択を行い、新しいスナップを取得できるようになります。

2. 使用したいスナップショットを選択します。
スナップショットが更新され、ビジュアライゼーションで段階的の公開が使用されるようになる自由なサイズ変更機能を使用して前回のスナップショットのサイズに調整します。






段階的の公開とは、以下を意味します。ビジュアライゼーション(またロック解除されたスナップショット)のサイズが増大すると、その情報は段階的に公開されます。反対に、ビジュアライゼーション(またロック解除されたスナップショット)のサイズが縮小すると情報も削減されるため、限られたスペースに大量の情報を詰め込むことを避け、最も重要な情報に焦点を当てることができるようになります。


これでスライドでスナップショットが置換されます。

ストーリー スライド上のアイテムのコピーおよび移動

ストーリー スライド上にあるアイテムは、スライド内またはスライド間のコピーや移動が可能です。アイテムをコピーまたは移動させるには、以下の方法を実行します。



- シート (,  および )
- キーボードショートカットを使用 (Ctrl+C、Ctrl+X、Ctrl+V)



異なるアプリ間のアイテムはコピーできません。ツールバーの  を使用して、ストーリーを切り替えます。

アイテムのコピー

次の手順を実行します。



1. ストーリーテリング ビューで、コピーしたいアイテムをクリックします。
アイテムがハイライトされます。
2.  をクリックして、
3. 別のスライドにアイテムを挿入するには、挿入するスライドを選択します。
4.  をクリックして、

他のアイテムの前面に、コピーされたアイテムが挿入されます。

他のスライドへのアイテムの移動

2枚のスライド間でアイテムを移動させるには、希望のアイテムを切り取り、移動先のスライド上に貼り付けます。

次の手順を実行します。

1. ストーリーテリング ビューで、移動させるアイテムをクリックします。
アイテムがハイライトされます。
2. 編集バーで、 をクリックして、
3. アイテムを移動するシートを表示します。
4.  をクリックして、

選択したスライドの他のアイテムの前面に、移動したアイテムが挿入されます。

ストーリー内のスライドの複製

ストーリー内でスライドを複製できます。

次の手順を実行します。

1. 編集するストーリーをクリックします。
ストーリーが開き、左にスライドのサムネイルが表示されます。
2. 複製するスライドをロングタッチ/右クリックします。
3. **[複製]** を選択します。

複製されたスライドが、元のスライドの下に配置されます。

スライドでのアイテムの並べ替え

ストーリーのスライド編集集中に、アイテムを積み上げて整頓し、積み上げられたアイテムを表示する順序を決めることができます。これは、アイテムが重なっている場合に便利です。

一段階ずつ並べ替える

次の手順を実行します。

1. 並べ替えたいアイテムをロングタッチ/右クリックします。
アイテムのショートカットメニューが開きます。
2. **[前面に移動]** あるいは **[背面に移動]** を選択します。

選択したアイテムが一段階前面へ移動、あるいは一段階背面へ移動します。

最前面あるいは最背面に並べ替え

次の手順を実行します。

1. 並べ替えたいアイテムをロングタッチ/右クリックします。
アイテムのショートカットメニューが開きます。
2. **[最前面に移動]** あるいは **[最背面に移動]** を選択します。

選択したアイテムが、スライド上の他のどのアイテムよりも後ろ、あるいは前に移動します。

タイムライン上のスライドの順序変更

ストーリーの編集集中に、タイムライン上でスライドを動かすことができます。

次の手順を実行します。

1. タイムラインで移動させるスライドをロングタッチ/クリックして押したままにします。
2. スライドを新しい場所にドラッグします。

新しい場所にあるスライドの間に隙間ができ、そこにスライドが配置されます。

スライドでのアイテムのサイズ変更

サイズ変更ハンドルを使うと、スライド上のアイテムのサイズを変更できます。画像やテキストのタイトルといったアイテムは、サイズを変更しても元の縦横比が維持されます。パラグラフテキストや特定の図形などは、縦横を問わず、より柔軟にサイズ変更が可能です。

スナップショットのサイズを変更するには、次の2通りの方法があります。

- ロック: 縦横比が維持されます。
- ロック解除: サイズを自由に変更し、段階的に公開できます。



段階的公開とは、以下を意味します。ビジュアルライゼーション(またロック解除されたスナップショット)のサイズが増大すると、その情報は段階的に公開されます。反対に、ビジュアルライゼーション(またロック解除されたスナップショット)のサイズが縮小すると情報も削減されるため、限られたスペースに大量の情報を詰め込むことを避け、最も重要な情報に焦点を当てることができるようになります。

一般的なサイズ変更


次の手順を実行します。

1. ストーリーテリングビューで、サイズ変更したいアイテムをクリックします。
2. サイズ変更ハンドルの1つをドラッグして、アイテムのサイズを変更します。
アイテムがグリッドにスナップされます。
3. サイズ変更ハンドルをリリースします。

これでアイテムのサイズが変更されます。

スライドからのアイテムの削除

次の手順を実行します。

1. ストーリーテリング ビューで、削除したいアイテムをクリックします。
アイテムがハイライトされます。
2. 編集 バーで、 をクリックします。

スライドからアイテムが削除 されます。



アイテムのショートカット メニューから**[削除]** を選択して、アイテムを削除 することもできます。

ストーリーからのスライドの削除

次の手順を実行します。

1. ストーリーテリング ビューを開き、タイムラインから削除したいスライドをロングタッチ/右クリックします。
スライドのショートカット メニューが開きます。
2. **[スライドの削除]** をクリックします。

これでストーリーとタイムラインからスライドが削除 されます。

2.7 説得力のあるストーリーの作成

説得力のあるストーリーを作成するために、インサイトを強調することができます。テキスト、画像、図形をストーリー スライドに追加して、強調してください。データが際立つように、スナップショットに効果を適用することも可能です。

強調の追加

オーディエンスが理解しやすいよう、洞察を強調して明確にすることができます。スナップショットに効果を追加して、特定のデータポイントを強調するとともに、関係のない情報の表示を抑えます。これによって、オーディエンス向けの情報が過剰に表示されないため、提示したい主要な洞察内容に注目させることができます。

このセクションには、さまざまな効果をスナップショットに適用する方法や、スナップショットでデータポイントをハイライトする方法など、洞察を強調するトピックが掲載されています。

情報過多を抑えて洞察を強調するひとつの手段として、情報を非表示にするという方法が挙げられます。例えば、タイトルや目盛線、データポイント線、脚注、凡例などを非表示にして、スナップショットの外観を変えることができます。


スナップショットへの効果の適用

スナップショットにさまざまな視覚効果を追加することで、特定の値をハイライトすることができます。



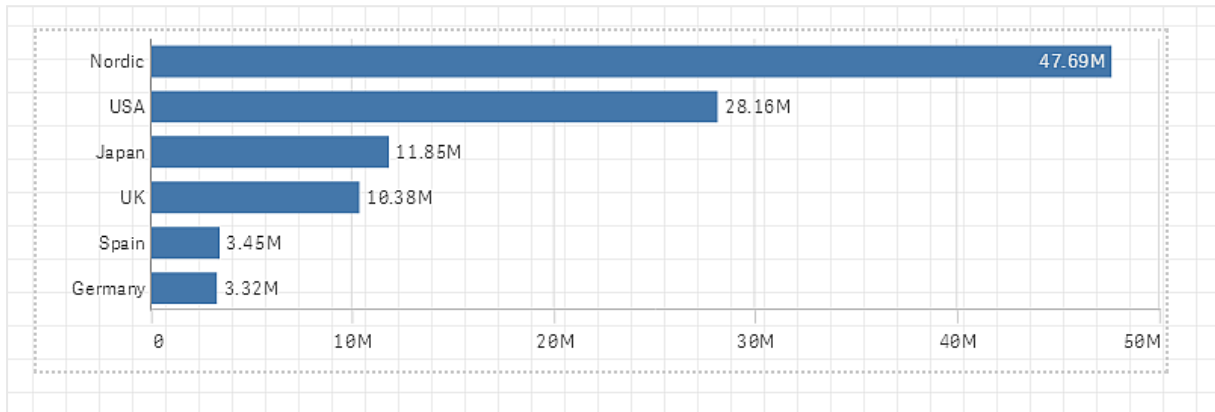
棒グラフ、折れ線グラフ、および円グラフでのみ効果を使用 できます。

次の手順を実行します。

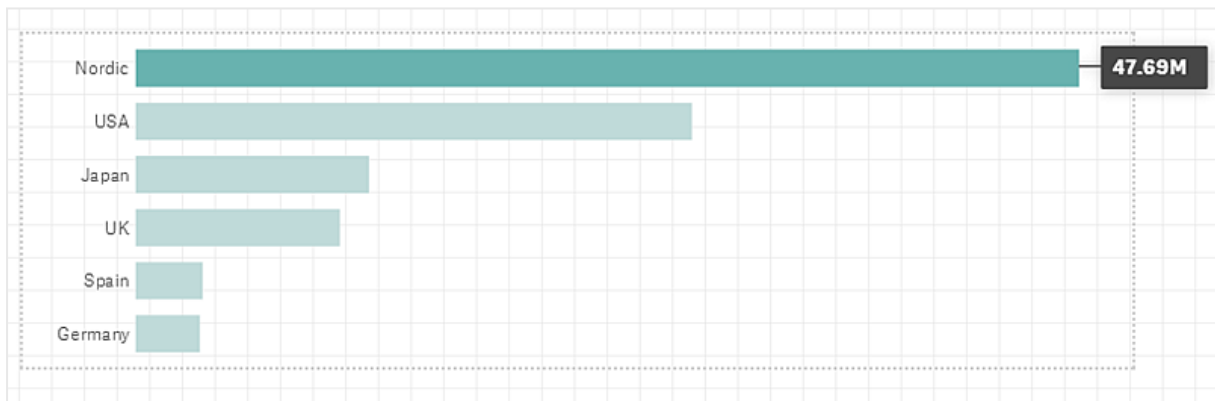
1. ストーリーテリング ビューで、ストーリー ツール パネルにある  をクリックします。
効果 ライブラリが開きます。
2. 使用したい効果を探し出し、スナップショットにドラッグします。

視覚効果が追加されたスナップショットが表示されます。

効果が追加されていない棒グラフのスナップショット。




[**最大値**] 効果を適用した棒グラフのスナップショット



スナップショットでのデータポイントのハイライト

[**任意の値**] の効果が適用されているスナップショットでは、特定のデータポイントを選択してハイライトできます。

次の手順を実行します。

1. ストーリーテリング ビューのスライドで、[**任意の値**] の効果が適用されているスナップショットを選択します。
2. スナップショットで  をクリックします。
データポイントのリストを含むダイアログが表示されます。
3. リストでデータポイントのいずれかをクリックします。



また、スナップショットでデータポイントを直接クリックすることもできます。

4. スナップショットの外側をクリックします。

選択されたデータポイントがスナップショットでハイライトされます。

スナップショットの効果の削除

次の手順を実行します。

1. ストーリーテリングビューで、削除したい効果が含まれているスナップショットを右クリックします。ショートカットメニューが表示されます。
2. ショートカットメニューで **[効果の削除]** をクリックします。

スナップショットから効果が削除されます。

テキストと図形を使用したスタイル



ストーリーに説得力を持たせるため、スタイル要素を追加できます。テキストやハイパーリンク、図形などが良い例です。

このセクションには、アイデアを形にするために役立つトピックが掲載されています。要素を追加したり、要素のサイズ、色、フォントスタイルなどを書式設定できます。

スライドへのテキストの追加

ストーリー スライドには、さまざまなスタイルのテキストを追加できます。

次の手順を実行します。

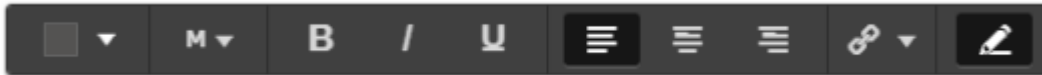
1. ストーリー ツール パネルのストーリーテリングビューで **A** をクリックします。
[テキストオブジェクト] ダイアログが開きます。
2. 追加するテキストのスタイルを特定し、スライドにドラッグします。
テキストオブジェクトがスライドに追加され、グリッドにスナップされます。キーボードの矢印キーを使って自由に移動させることができます。
3. テキストオブジェクトをダブルクリックするか、.
4. テキストを入力します。
5. テキストオブジェクトの外側をクリックするか、.

これでテキストが保存されました。

スライド上のテキストの書式設定

ストーリー スライドでは、テキスト書式設定 ツールバーを使用してテキストの書式を変更できます。ここでは、テキストの色やサイズ、フォントスタイル、テキストの配置を変更できます。また、リンクとブックマークを追加することも可能です。



パラグラフテキストオブジェクトのテキスト書式設定ツールバー



テキストオブジェクトの書式を設定するには、テキストオブジェクトをダブルクリックします。

フォントスタイルの変更



次の手順を実行します。

1. ストーリーテリング ビューを開き、書式設定するテキストオブジェクトをダブルクリックします。または、テキストオブジェクトをクリックし、。テキスト書式設定 ツールバーが表示されます。
2. スタイルを設定したいテキストを選択します。
3. 次のいずれかをクリックします (複数選択可能): **B**, *I* または、U。
4. テキストオブジェクトの外側をクリックするか、.

これでテキストのフォントスタイルが変更されます。

パラグラフのフォントサイズの変更


次の手順を実行します。

1. ストーリーテリング ビューを開き、書式設定する[**パラグラフ**] テキストオブジェクトをダブルクリックします。または、テキストオブジェクトをクリックし、。テキスト書式設定 ツールバーが表示されます。
2. サイズを変更したいテキストを選択します。
3. フォントサイズ インジケーターの横にある ▼ をクリックし、XS、S、M、L、XL のいずれかのサイズを選択します。
4. テキストオブジェクトの外側をクリックするか、.

これでテキストのフォントサイズが変更されました。

タイトルのフォントサイズの変更


次の手順を実行します。

1. ストーリーテリング ビューを開き、書式設定する[**タイトル**] テキストオブジェクトをクリックします。
2. テキストの角をドラッグして、フォントサイズを変更します。
3. テキストオブジェクトの外側をクリックするか、.





これでテキストのフォントサイズが変更されました。

パラグラフ内にあるテキストの配置変更

次の手順を実行します。

1. ストーリーテリング ビューを開き、書式設定する[**パラグラフ**] テキストオブジェクトをダブルクリックします。または、テキストオブジェクトをクリックし、.

テキスト書式設定 ツールバーが表示されます。

2. 配置変更するテキストパラグラフをクリックします。
3. をクリックして、, または .
4. テキストオブジェクトの外側をクリックするか、.



これでテキスト配置が変更されます。



デフォルトでは、左揃えになっています。

テキストの色変更

次の手順を実行します。


1. ストーリーテリング ビューを開き、書式設定するテキストオブジェクトをダブルクリックします。または、テキストオブジェクトをクリックし、。テキスト書式設定 ツールバーが表示されます。
2. 色を変更したいテキストを選択します。
3. ツールバーのカラー インジケータの横にある▼ をクリックします。カラー パレットが表示されます。
4. パレット上にある希望の色をクリックします。
5. テキストオブジェクトの外側をクリックするか、.

これでテキストに色が適用されます。

スライドへの図形の追加

スライドには、さまざまな種類の図形を追加できます。

次の手順を実行します。

1. ストーリーテリング ビューで、ストーリー ツール パネルにある をクリックします。図形 ライブラリが開きます。
2. 追加したい図形を検索して、スライドにドラッグします。図形がスライドに追加され、グリッドにスナップされます。キーボードの矢印キーを使って自由に移動させることができます。

スライドに図形が追加されます。

スライド上の図形の書式設定

図形の書式設定 ツールバーを使用し、以下の通り図形の書式設定を行うことができます。

- 色

図形の色変更

次の手順を実行します。

1. ストーリーテリング ビューで、書式設定したい図形をクリックします。
色のオプションを含むツールバーが表示されます。
2. ツールバーのカラー スクエアをクリックします。
カラー パレットが表示されます。
3. 色を選択します。
4. 図形の外側をクリックします。

図形に色が適用されます。


スライドへのブックマークの追加

テキスト書式設定 ツールバーには、テキストオブジェクトにブックマークを追加するためのリンク オプションがあります。

ブックマークの追加

テキストパラグラフにマークを付けると、ブックマークとして使用できます。

次の手順を実行します。


1. ストーリーテリング ビューを開き、ブックマークを追加するテキストオブジェクトをダブルクリックします。
テキスト書式設定 ツールバーが表示されます。
2. ブックマークとして使用するテキストパラグラフを選択します。
3.  をクリックします。
ダイアログが開きます。
4. 右にある **[ブックマーク]** をクリックして、リストからブックマークを選択します。
5. テキストの外側をクリックします。

これでブックマークが追加されます。

スライドへの画像の追加

画像をストーリー スライドに追加できます。サムネイルには、既定の画像のうちの1つを使用することも、独自の画像を使用することもできます。

次の手順を実行します。

1. ストーリーテリング ビューで、ストーリー ツール パネルにある  をクリックします。
[メディア ライブラリ] が開きます。
次の形式がサポートされています。png、jpg、jpeg、およびgif。

Qlik Sense の場合: メディア ライブラリの **[アプリ内]** フォルダーに画像をアップロードできます。画像をデフォルトフォルダにアップロードするには、Qlik Management Console を使用する必要があります。

Qlik Sense Desktop の場合: コンピューター上の次のフォルダーに画像を配置できます

C:\Users\\Documents\Qlik\Sense\Content\Default。メディア ライブラリの **[default]** (既定) フォルダー

から画像を使用できます。アプリをインストール間で移動すると、アプリで使用する画像はアプリと一緒に qvf ファイルに保存されます。新しい場所、例えば Qlik Sense Cloud でアプリを開くと、画像はアプリのメディアライブラリの **[アプリ内]** フォルダにあります。

2. メディア ライブラリ内の **[アプリ内]** や **[デフォルト]** といったフォルダをクリックします。
3. スライドに追加する画像を選択します。
画像のプレビューが表示されます。
4. **[挿入]** をクリックします。



代わりに、追加する画像をロングタッチ/右クリックし、**[挿入]** を選択します。

画像が追加され、グリッドにスナップされます。キーボードの矢印キーを使って自由に移動させることができます。



画像がスライドの幅または高さより大きい場合は、スライドに合わせてサイズが変更されます。


スライドへのリンクの追加

テキスト書式設定 ツールバーには、テキスト オブジェクト内にリンクを追加するオプションがあります。

リンクの追加


テキストパラグラフにマークを付けると、リンクとして使用することができます。

次の手順を実行します。

1. ストーリーテリング ビューを開き、リンクを追加するテキストオブジェクトをダブルクリックします。
テキスト書式設定 ツールバーが表示されます。
2. リンクに使用するテキストパラグラフを選択します。
3. をクリックして、
リンクのダイアログが開きます。
4. **[リンク先]** 項目にリンク先の Web アドレスを入力します。



プレフィックスを省略すると、システムはこれを Web アドレスと見なし、自動的に **http://** を追加します。



5. をクリックして、 Enter キーを押して新しいリンクを適用します。
6. テキストの外側をクリックします。

これでリンクが追加されます。

リンクの削除

テキストパラグラフからリンクを削除することもできます。

次の手順を実行します。

1. ストーリーテリングビューを開き、リンクを削除するテキストオブジェクトをダブルクリックします。
テキスト書式設定ツールバーが表示されます。
2. リンク内にカーソルを置いた状態で、リンクをクリックします。
3.  をクリックして、
リンクのダイアログが開きます。
4.  をクリックして、
5. テキストの外側をクリックします。

これでリンクが削除されますが、テキストパラグラフは維持されます。

スナップショットの外観の変更


重要ポイントを強調し、明確に伝える1つの方法として、スナップショットの一部を表示/非表示にすることができます。

スナップショットのプロパティの変更

以下に、編集可能なプロパティをまとめています。

- タイトル (メインタイトル、サブタイトル、脚注)
- グリッド線の間隔
- ラベル (データポイントラベル、リーフレベル、軸ラベル)
- 凡例
- タイトルとラベル付きのX軸
- タイトルとラベル付きのY軸

次の手順を実行します。

1. ストーリーテリングビューで、編集したいスナップショットをクリックします。
2.  をクリックして、
ダイアログが開いて、スナップショットの外観を変更できるようになります。
3. [タイトルの表示] では、[オン] または [オフ] をクリックしてメインタイトル、サブタイトル、脚注を表示または非表示にします。
4. [グリッド線の間隔] では、グリッド線の間隔を [自動] または [カスタム] に設定して、ドロップダウンリストから [なし]、[広い]、[標準]、または [狭い] オプションのいずれかを選択します。
5. [値ラベル] では、[自動] または [オフ] をクリックします。
6. [凡例の表示] では、[自動] または [オフ] をクリックします。
7. [x 軸] および [y 軸][ラベルとタイトルについては]、オプション [ラベルとタイトル] または [ラベルのみ]、[タイトルのみ]、[なし] をドロップダウンリストから1つ選択します。
8. [完了] をクリックします。

これでスナップショットの外観が変更されました。



[自動] を選択し、プロパティが表示されない場合、スナップショットのサイズを拡大する必要があります。

グリッド線、X 軸、およびデータラベルだけを表示したスナップショットダイアログ。




スナップショットのサイズ変更時のアスペクト比の変更

スナップショットのサイズの変更時に、縦横比のロックを解除して自由にサイズを変更することもできます。縦横比のロックを解除してサイズを変更すると、ビジュアライゼーションは段階的公開を使用するようになります。




段階的公開とは、以下を意味します。ビジュアライゼーション(またロック解除されたスナップショット)のサイズが増大すると、その情報は段階的に公開されます。反対に、ビジュアライゼーション(またロック解除されたスナップショット)のサイズが縮小すると情報も削減されるため、限られたスペースに大量の情報を詰め込むことを避け、最も重要な情報に焦点を当てることができるようになります。

次の手順を実行します。

1. ストーリーテリングビューで、サイズ変更したいスナップショットをクリックします。
2. をクリックして、アスペクト比のロックを解除して自由にサイズ変更できるようにします。
が表示されます。
3. 端にあるハンドルを使用して、ビジュアライゼーションのサイズを変更します。
サイズを変更すると、ビジュアライゼーションは段階的公開を使用するようになります。
4. をクリックして、アスペクト比をロックします。

スナップショットの縦横比が変更され、ビジュアライゼーションのサイズが変更されました。



ビジュアライゼーションのサイズをが表示されているときに変更すると、段階的公開なしにイメージのサイズが変更されます。

2.8 ストーリーのプレゼンテーション

ストーリーの作成段階で外見や動作を確認する必要がある際には、作成中のストーリーを再生できます。ストーリーの再生は、全画面表示モードで行われます。ここで、スナップショットやライブデータシート、テキスト、図形、視覚効果が実際にどのように表示されるか確認できます。


オーディエンスから質問が出た際は、スナップショットのライブデータやライブデータシートを参照することも可能です。このようにして、ストーリーの可能性を発掘し、ストーリーを新たな方向へと導くことができます。

ストーリーの再生

オーディエンス向けのプレゼンテーション通りに、ストーリーを再生できます。スライドを前後に移動するためのコントロール機能も搭載されています。スライドにライブデータシートが挿入されている場合は、選択を行う前にシートをクリックする必要があります。

再生の開始

次の手順を実行します。

- ストーリーテリングビューで、.

全画面表示でストーリーが開き、現在のスライドを再生できるようになります。



アプリ概要またはストーリーナビゲーターでシートをロングタッチ/右クリック、またはショートカットメニューから[再生]を選択してストーリーの再生を開始することもできます。



タッチ式デバイスでは、ピンチタッチジェスチャでスライドをズームイン、ズームアウトできます。ズームインすると、ライブデータシートで選択を行うことができません。

データポイント情報の表示

次の手順を実行します。

- データポイントにマウスを合わせると、データポイントの情報を含むツール ヒントが表示されます。

スライド番号の表示

次の手順を実行します。

- スライド下部の●●●をクリックすると、現在使用しているスライドとストーリー内のスライドの合計数が表示されます: <current slide number> [-] <total number of slides>。

スライド間の移動

次の手順を実行します。

- スライド下部にある●●●をクリックします。
- をクリックして、◀ または ▶ スライド間を移動します。



タッチ式デバイスでは、スライドを左または右にスワイプします。コンピュータでは、キーボードの矢印キーまたはスペースキーを使用します。

ライブデータシートを調整する

ライブデータシートを調整して選択を行うには、まずそのシートをクリックします。

次の手順を実行します。

- ライブデータシートをクリックします。


シートが選択可能な状態になります。



ライブデータシートの外側をクリックするか別のスライドに移動すると、選択可能な状態が無効になります。

ストーリーのエクスポート

次の手順を実行します。

- スライド下部にある●●●をクリックします。
- をクリックして、。
[PowerPoint 設定] ダイアログが開きます。

再生の終了

次の手順を実行します。

- 再生を終了するには、 をクリックするか、Esc を押します。

スナップショットの生データへのアクセス

(ストーリー スライドの) スナップショットから、元データであるシートやビジュアライゼーションに移動することができます。この操作により、スナップショットの生データにアクセスして新たな選択を行い、ストーリーに新しい方向性を持たせることができます。

次の手順を実行します。

1. ストーリーテリング ビューで、スナップショットのあるストーリー スライドに移動します。
2. スナップショットをロングタッチ/右クリックします。
スナップショットのショートカットメニューが開きます。
3. **[ソースの表示]** を選択します。

スナップショットの元になっているシートに移動します。スナップショットが取得されたA ビジュアライゼーションが最初にハイライトされます。



スナップショットには、スナップショットを取得するユーザーのアクセス権限に従ってデータが表示され、そのスナップショットは1つのストーリーで共有することができます。ただし、ユーザーがアプリでライブデータを見るためにストーリーからビジュアライゼーションに戻ると、それらのスナップショットは、それ独自のアクセス権限によって制限されます。



スナップショットの元であるビジュアライゼーションが利用できなくなっている場合は、元になっているシートに移動します。ビジュアライゼーションが配置された全体のシートが利用できない場合は、ストーリーテリングビューに留まり、**[シートがありません]** というエラーメッセージが表示されます。



ストーリーを再生中に、スナップショットのライブデータにアクセスできます。

スライドからシートへのアクセス

ストーリーを再生するときに、ライブデータシートからシート表示にあるシートに移動できます。このため、選択が適用されている元のシートにアクセスできます。また、元のシートで新しい選択を行い、ストーリーを新しい方向に展開できます。

次の手順を実行します。

1. ストーリーを再生中に、ライブデータシートのあるストーリー スライドに移動します。
2. **[シートの表示]** をクリックします。

ライブデータシートで行った選択が反映されているシート表示にあるシートに移動します。

ライブデータシートでの選択

ストーリーを再生すると、シートビューに表示されているシートと同様に、ライブデータシートでも選択ができます。

選択の有効化

次の手順を実行します。

1. ストーリーテリングビューで、▶タイムラインの上の をクリックします。
2. ライブデータシートのあるスライドに移動します。
3. ライブデータシートをクリックして、選択可能にします。
シートがインタラクティブ可能な状態になります。
4. ビジュアライゼーションで選択を開始します。

ビジュアライゼーションが選択に対応し、データのサブセットがフィルターされます。



ライブデータシートの外側をクリックするか別のストーリー スライドに移動すると、選択可能な状態が無効になります。

小型画面でのストーリーの再生中にシートを表示して選択を行うには、シートビューにアクセスする必要があります。

選択のリセット

ライブデータシートで行った選択はリセット可能です。

次の手順を実行します。

- ストーリー再生中にライブデータシートで行った選択をリセットするには、**[選択のリセット]** をクリックします。

ライブデータシートでの選択が、スライドにシートを挿入した時点と同じ選択内容にリセットされます。



このリセット操作を実行することで、スライドにライブデータシートを挿入した時点の設定にいつでも戻すことが可能です。

2.9 トラブルシューティング - データストーリーテリングの使用

このセクションでは、Qlik Sense でデータストーリーテリングを使用するときに発生する可能性のある問題について説明します。

ストーリーを編集できません

ストーリーを変更したいのですが、ストーリーを編集できません。

Possible cause

ストーリーは公開されています。

Proposed action

ストーリーを作成した場合、編集を有効にするには、ストーリーの公開を中止する必要があります。

詳細については、「ストーリーの公開中止 (page 45)」を参照してください。

Proposed action

ストーリーを作成しなかった場合、編集を有効にするには、ストーリーの複製を作成します。ただし、元のストーリーが更新されても、複製されたストーリーには反映されません。

詳細については、「ストーリーの複製 (page 13)」を参照してください。

シートが見つからない

再生しようとするストーリーシートがありません。

Possible cause

シートが削除されています。

シートはプライベートです (別のユーザーの [マイ シート] に置かれています)。

Proposed action

シートがプライベートの場合は、シートの所有者にシートを公開するよう依頼してください。

詳しくは「公開 (page 35)」と「シートの公開 (page 42)」を参照してください。

スナップショットの外観を変更できない

スナップショットのプロパティで自動を使用したいのですが、スナップショットの外観が変わりません。

Possible cause

スナップショットが小さすぎます。

Proposed action

ストーリーテリングビューで、スナップショットのサイズを拡大してください。

詳細については、「スライドでのアイテムのサイズ変更 (page 19)」を参照してください。

テキストオブジェクト内にリンクを追加できない

テキストオブジェクト内でリンクを追加したいのですが、リンクが機能していません。

Possible cause

Internet Explorer 10 または 11 を使用しています。つまり、外部ソースからリンクをコピーして貼り付けることはできません。リンクをテキストオブジェクトに貼り付けると、形式が失われます。

Proposed action

別のブラウザを使用して、リンクを追加してください。

詳細については、「スライドへのリンクの追加 (page 26)」を参照してください。

スナップショットを取得できない

スナップショットを取得したいのですが、できません。

Possible cause

スナップショットを取得しようとしているビジュアライゼーションは不完全です。

スナップショットを取得しようとしているビジュアライゼーションは拡張です。拡張のスナップショット機能は、既定では有効になりません。

スナップショットを取得しようとしているビジュアライゼーションはフィルタペインです。フィルタペインのスナップショットはサポートされていません。

Proposed action

ビジュアライゼーションを完了します。

ビジュアライゼーション拡張のメインスクリプトでスナップショット機能を有効にします。そのためには、スナップショットのプロパティを `true` に設定する必要があります。スクリプトの編集を行う許可が必要か、または開発者のヘルプが必要です。

ストーリーでスライドの順序を変更できない

ストーリータイムラインでスライドを移動したいのですが、できません。

Possible cause

ハイブリッドデバイスでマウスを使用しています。

Proposed action

以下のいずれかを行います。

- グローバルメニュー (☰) では、タッチ式デバイス対応をオフにしてください。
- スライドを移動する前に、マウスのボタンを押したままにしてください。
- または、タッチスクリーンを使用し、ロングタッチしてドラッグし、項目を削除します。

スナップショット内のデータがビジュアライゼーション内に存在しない

スナップショットソースに移動する場合に、ビジュアライゼーション内にスナップショット内と同じデータが表示されません。

Possible cause

スナップショットを取得しているユーザーがデータのアクセス権を持っており、このアクセス権が自身には割り当てられていません。これは、データロードスクリプトに定義されているセクションアクセス権限のためです。

Proposed action

スクリプトで、同じセクションアクセス権限を要求してください。

3 公開

公開は、アプリのコンテンツを共有する1つの方法です。アプリはストリームに公開します。

ストリームへのアクセス権を持つ場合、アプリでビジュアライゼーションを操作することによって、データを分析できます。

アプリはコレクションに公開することもでき、Qlik Sense Enterprise 展開の外部でユーザーが使用できるようにします。

通常は、設計の作業を停止してアプリを公開します。アプリの設計には、ビジュアライゼーションの作成およびアプリのプレゼンテーションの整理が含まれます。公開済みのアプリを再公開して、新しいコンテンツで更新できます。

アプリを公開すると、ロックされます。公開済みのシートやストーリーを他のユーザーが編集することはできませんが、データの操作と分析のために使用することは可能です。新しいシートとストーリーを、公開済みアプリのベースシートおよびストーリーに含めるよう承認することができます。これによって、公開済みアプリのコンテンツをコラボレーションして設計できます。

Qlik Sense Enterprise では、管理者は Qlik Management Console からアプリを公開できます。アプリの所有者は、アプリをハブから公開したり、公開済みのアプリをストリーム間で移動したりすることもできます。公開されたすべてのアプリは、Qlik Sense 管理者が設定した配布ポリシーによって評価されます。これらのポリシーによって、アプリを Qlik Sense Enterprise クラウドハブで使用できるように配布するかどうかを決定します。

さらに、Qlik Sense Enterprise では、レポートを Qlik NPrinting から Qlik Sense Enterprise ハブに配布できます。QlikView ドキュメントへのリンクも Qlik Sense Enterprise ハブで公開できます。



この機能は Kubernetes では使用できません。

3.1 公開のワークフロー

Qlik Sense Enterprise 展開に応じて、アプリを開発して公開する方法は異なります。

アプリを自身で開発し、ストリームに公開して消費者が使用できるようにすることができます。アプリをコラボレーションして開発している場合は、アプリをストリームに公開すると、そこでレビューアーおよびコラボレーターがシートおよびストーリーを追加できます。その後これらのシートおよびストーリーをアプリのベースコンテンツに含めてから、消費者向けにストリームに公開できます。

展開に Qlik Cloud Services または Qlik Sense Enterprise on Kubernetes も含まれている場合は、アプリをコレクションに公開することもできます。コレクションにはこれらの展開のクラウドハブからアクセスできます。コレクションによって、Qlik Sense Enterprise 展開の外部にいるユーザーがアプリを消費することもできるようになります。



この機能は Kubernetes では使用できません。

アプリの開発および公開のワークフローのサンプルは以下のとおりです。

アプリを Qlik Sense Enterprise の確認 ストリームに公開します。

データモデルを作成し、アプリにビジュアライゼーションを作成したら、確認専用のストリームに公開すると、他の Qlik Sense Enterprise ハブ ユーザーがアクセスし、コラボレーションしてフィードバックを提供できます。

公開済みアプリのコラボレーションによる開発を管理します。

アプリを確認ストリームに公開すると、他の開発者がシートやストーリーをアプリに追加できるようになります。シートおよびストーリーは既定では個人用です。ただし、開発者はそれらをコミュニティシートおよびストーリーとして公開し、他のユーザーが使用できるようにすることができます。

アプリの所有者はコミュニティシート/ストーリーをアプリのベースシート/ストーリーに追加できます。これによって、アプリを複製またはエクスポートするときに、シートとストーリーがアプリに含まれるようになります。

アプリのプロパティを管理します。

Qlik Sense 管理者は、アプリへのアクセスを特定のユーザーまたはグループに限定するなど、のタスクに使用する、カスタム プロパティを作成できます。これらのカスタム プロパティを、ハブ内のアプリに追加できます。

公開済みのアプリを消費 ストリームに移動します。

アプリの確認およびコラボレーションによる開発が完了したら、公開済みのアプリを消費 ストリームに移動すると、そこで対象消費者がアプリにアクセスできます。

任意で、アプリをクラウド ハブに公開します。

展開に Qlik Cloud Services または Qlik Sense Enterprise on Kubernetes が含まれている場合、クラウドハブに公開することによって、Qlik Sense Enterprise の外部の閲覧者がアプリを使用できるようにすることができます。

アプリを再公開します。

オプションで、アプリを再公開して、新しいベースシートやデータモデルへの更新などの、必要な更新を公開済みのアプリに行います。

アプリを廃止してアーカイブ ストリームに移動します。

アプリが不要になった場合には、消費ストリームから削除してアーカイブ ストリームに移動できます。

アプリをクラウドハブに公開したら、クラウドハブから削除します。

3.2 Qlik Sense Enterprise ストリームへの公開

Qlik Sense Enterprise 管理者がアプリを Qlik Management Console からストリームに公開すると、ストリームにアクセス可能なユーザーは、アプリのシートとストーリーにアクセスできるようになります。自身のアプリを、ハブから公開アクセス権のあるストリームに公開できます。公開済みアプリをハブからストリーム間に移動することもできます。

公開されたアプリの所有者は、サムネイル、アプリ名、および自身で公開したアプリの説明を編集できますが、ストリームに公開済みのアプリはロックされます。他のユーザーはビジュアライゼーションの操作およびデータの分析を実行できます。ただし、アプリで公開されたベースシートとベースストーリーは誰も編集できません。正当なアクセス権限があれば、公開済みのアプリにプライベートシートとストーリーを追加することはできます。

公開済みのアプリを所有している場合、プライベートシートとストーリーを公開済みのアプリに追加し、自身およびコミュニティのシートをアプリのベースシートに含めるように承認できます。アプリのベースシートおよびベースストーリーは編集できませんが、それらを編集したい場合はプライベートシートとストーリーに変換できます。

公開済みのアプリを変更する必要がある場合は、公開済みのアプリを複製のコンテンツで更新して再公開できます。



この機能は *Kubernetes* では使用できません。

ストリーム

ハブの内容は、ストリームで整理されています。ストリームとは、あるユーザーグループが独占的にアクセスできるアプリの集合体です。ストリームのユーザーは、それぞれ異なるアクセス権限を持つことができます。ストリームの読み取りしか許可されていないユーザーがいる一方、ストリームに自分のコンテンツを公開する権限を持つユーザーもいます。

既定では、Qlik Sense に *Everyone* というストリームがあり、すべてのユーザーに読み取り/公開権限が付与されています。

すべてのユーザーは、所有するコンテンツに関して自身の **[作業]** スペースおよび **[公開済み]** スペースを持っています。**[作業]** には個人用の未公開アプリが含まれています。**[公開済み]** には公開済みのアプリへのリンクが含まれています。これらのリンクによって、公開済みの作業を追跡したり、公開済みのアプリの移動や複製などのタスクをより簡単に実行したりできるようになります。

ストリームに関する閲覧と公開の権限は、*Qlik Management Console* で定義されます。

公開済みアプリの複製を使用して、新しいアプリのテンプレートとして使用できます。

ハブにあるアプリは、公開アクセス権のあるストリーム間で移動できます。

シートとストーリー

ストーリーを公開済みアプリの一部として作成できます。これらのシートとストーリーをアプリの一部として公開できます。公開されたシートとストーリーは、アプリ所有者がアプリのベースシートに追加できます。ベースシートとストーリーをアプリから削除して、公開済みのシートとストーリーに変更することもできます。

公開済みのアプリで作業する場合、シートおよびストーリーは、そのステータスに応じてアプリ概要のセクションで整理されます。

[ベースシート]、**[コミュニティ]**、**[自分が公開したもの]**、および**[マイシート]** の4つのセクションがある初心者用チュートリアルシート表示。

The screenshot displays the Qlik Sense interface for a 'Beginner's tutorial' application. At the top, there is a header with a share icon, a menu icon, and the application name 'Beginner's tutorial'. Below this, a dark banner shows a logo of two overlapping circles (one green, one orange) and metadata: 'Data last loaded: Jan 12, 2016, 7:47 AM', 'Published: May 2, 2018, 9:43 AM', and 'Published to: Everyone'. The main content area is divided into several sections: 'Base sheets (3)' containing 'Dashboard', 'Customer Details', and 'Customer Location'; 'Community (1)' containing 'Region details'; 'Published by me (1)' containing 'Product Details'; and 'My sheets (1)' containing 'Sales' and a 'Create new sheet' button. A 'Create new sheet' button is also visible in the top right of the main area.

[シート表示] セクション

セクション	説明
基本のシート/基本のストーリー	アプリが公開、再公開されたとき、または公開後にアプリのベースシートとベースストーリーに追加されたときに、アプリに含まれていたシートとストーリー。アプリのユーザー全員がアクセスできます。
[コミュニティ]	アクセス権のあるアプリに対し、他の誰かが作成および公開したシートおよびストーリー。このセクションのシートとストーリーは、ベースシートとストーリーに追加できます。

セクション	説明
[自分が公開したもの]	アプリのユーザー全員がアクセスできるように、作成して公開したシートおよびストーリー。他のユーザーは、[コミュニティ] セクションからアクセスできます。このセクションのシートは、ベースシートに含めるよう承認できます。
[マイシート]/[マイストーリー]	作成したけれども公開していないシートおよびストーリー。他の人は閲覧できません。

アプリの操作

アプリで実行できるタスクは、そのアプリが公開済みかどうかに応じて決まります。

未公開アプリ

次の操作が可能です。

- ロードスクリプトの編集およびデータのリロード
- データモデル ビューアを使った、データ構造と詳細の表示
- シート、ビジュアライゼーション、ブックマークの作成、編集、削除
- 再利用のためのマスター アイテム (軸、メジャー、ビジュアライゼーション) の作成
- シート、ストーリー、ブックマーク間の移動
- 選択の実行/取り消し
- ブックマークの適用/リコール

公開済みアプリ

次の操作が可能です。


- シート間の移動
- 最初からアプリに含まれていたシートと視覚的な探索
- 最初からアプリに含まれていたストーリーの表示
- アプリのデータに基づく独自のプライベートシート、ビジュアライゼーション、ストーリーの作成および編集
- 他のユーザーの使用を可能にするための作成したシートおよびストーリーの公開
- 再度プライベートにするための公開したシートおよびストーリーの公開中止
- 自身のプライベートシートの更新
- ベースシートとストーリーへの公開済みのシートとストーリーの追加
- ベースシートとストーリーからのシートとストーリーの削除
- シート間のビジュアライゼーションのコピーと貼り付け
- 最初からアプリに含まれていたマスター アイテム (軸、メジャー、ビジュアライゼーション) の使用
- 独自のプライベートブックマークの作成および編集
- 選択の実行/取り消し
- ブックマークの適用/リコール
- デフォルトの権限を持つアプリの所有者である場合の、データモデル ビューアへのアクセス

次の操作はできません。

- ロードスクリプトの編集やデータのリロード
- アプリを所有していない場合は、データモデルビューアーにアクセスします。
- 最初からアプリに含まれていたビジュアライゼーション、シート、ストーリー、およびブックマークの編集
- 公開済みのシートおよびストーリーの編集

ハブからのアプリの公開

作成したアプリを公開アクセス権のある任意のストリームに公開できます。アプリをストリームに既に公開している場合、公開アクセス権のあるストリーム間でアプリを移動できます。

アプリをストリームに公開すると、アプリがストリームに追加されます。そのアプリへのリンクは **[公開済み]** アプリにも追加され、のマークが付いてアプリがストリーム内に存在することが示されます。これによって、公開済みの作業を追跡したり、公開済みのアプリの移動や複製などのタスクをより簡単に実行したりできるようになります。アプリを公開するときに、Qlik Sense 管理者が作成したアプリのプロパティをアプリに追加したり、削除したりすることもできます。アプリのプロパティについては、「[アプリのプロパティの管理 \(page 41\)](#)」を参照してください。

アプリを公開するか、ストリーム間で公開済みのアプリを移動すると、そのアプリが属するストリームへのアクセス権を持つユーザーは、アプリのシートとストーリーを使用できるようになります。

公開済みのアプリは、QMC からのみ削除できます。



この機能は Kubernetes では使用できません。



制限されているデータを公開しないようにするには、アプリを公開する前に、セクションアクセス設定が含まれるすべての添付ファイルを削除します。

添付したファイルは、アプリが公開されるときに含まれます。公開済みアプリがコピーされると、添付ファイルがそのコピーに含まれます。ただし、添付したデータファイルにセクションアクセス制限が適用されている場合、ファイルがコピーされるときにセクションアクセス設定が保持されません。そのため、コピーしたアプリのユーザーは、添付ファイルのすべてのデータを表示することができます。

次の手順を実行します。

1. ハブの **[作業]** で、アプリをロングタッチ/右クリックして、次のいずれかの操作を実行します。
 - **[公開]** を選択する。
 - **[移動]** を選択する。
2. **[ストリーム名]** ドロップダウン リストで、アプリの公開先のストリームを選択します。



1 つのストリームのみに対するアクセス権がある場合は、ドロップダウンが表示されません。

3. **[アプリ名]** 項目に名前を入力します (オプション)。項目に、ハブから選択したアプリの名前が表示されます。



同じ名前を持つ多数のアプリをストリームに公開することは可能です。同じ名前を持つ公開済みのアプリが1つのストリーム内にある場合は、Qlik Sense がそれを示します。

4. アプリのプロパティを追加する場合は、[管理] をクリックしてアプリのプロパティを選択し、値を選択して[適用] をクリックします。
5. [公開] または [移動] をクリックします。

公開されたアプリが選択したストリームに存在するようになりました。公開されたアプリ用のエントリが[公開済み]アプリに追加され、公開されたアプリをその新しいストリームにリンクします。

現在アプリが表示されているストリームにアプリを公開または移動すると、それが通知され、そのストリームのアプリリストを更新できます。

ハブからのアプリの再公開

アプリをストリームに公開した後、アプリをストリームから削除せずに、アプリのベースコンテンツを変更する必要がある場合があります。例えば、作業を続行しながら、公開済みのアプリのコミュニティおよびプライベートのコンテンツを失わないように、公開済みのアプリを改善したい場合があります。アプリを再公開するには、公開済みのアプリを複製する必要があります。複製アプリには元のアプリへのリンクが含まれています。その後、複製アプリに変更を行い、公開済みのアプリと同じストリームに戻して再公開します。

再公開時に、基本セクションのすべてのコンテンツが複製のコンテンツで上書きされます。元のアプリのコンテンツ(プライベートおよびコミュニティのシートおよびストーリーなど)は、アプリを再公開するときに保持されます。

QMC からアプリを再公開することもできます。



この機能は Kubernetes では使用できません。

次の手順を実行します。

1. [作業] で、複製したアプリを右クリックして[公開] を選択します。
2. [既存のアプリを置換] を選択します。
3. [Republish] (再公開) をクリックします。

アプリのプロパティの管理

Qlik Sense 管理者は、QMC でアプリのカスタムプロパティを作成できます。アプリへのアクセスを制限する配布ポリシーを作成するなどのタスクに、これらのプロパティを使用できます。管理者はユーザーまたはグループ用のカスタムプロパティを作成して、ユーザーまたはグループの名前を値としてプロパティに追加することもできます。アプリを公開または移動しているときにも、これらのカスタムプロパティおよびこれらのプロパティの特定の値を、アプリの[作業] およびストリームに適用できます。



この機能は Kubernetes では使用できません。



アプリを未公開アプリに追加することはできますが、カスタムプロパティの設定によっては適用できない場合があります、その場合は Qlik Sense 管理者が制御します。

アプリのプロパティは、[プロパティの管理] ダイアログで、そしてアプリの詳細から表示できます。

次の手順を実行します。

1. ハブでアプリを右クリックして、[プロパティの管理] を選択します。
アプリの詳細から [プロパティの管理] にアクセスすることもできます。アプリの をクリックして、[管理] をクリックします。
2. 以下のいずれかを行います。
 - プロパティをアプリに追加するには、アプリのプロパティを選択して、そのプロパティから値を選択します。
値を検索することができます。
 - アプリのプロパティを削除する場合は、プロパティ値の をクリックします。
3. [適用] をクリックします。

シートの公開

作成したシートを公開して他のユーザーが閲覧できるようにすることができます。



シートは、すでに公開されているアプリの一部としてのみ公開できます。



この機能は Kubernetes では使用できません。

次の手順を実行します。

1. アプリ概要から、 をクリックしてシートを表示します。
2. 公開したいシートをロングタッチ/右クリックして、[公開] を選択します。
[シートの公開] ダイアログが表示されます。
3. [公開] をクリックします。

シートが公開され、[マイ シート] から [自分が公開したもの] に移動します。

同じアプリへのアクセス権を持つ他のユーザーは、[コミュニティ] セクションから公開済みのシートを閲覧できます。



シートビューのシートは、をクリックして [シートの公開] を選択するか、シートナビゲーターでシートをロングタッチ/右クリックすることによって公開することもできます。


シートの公開中止

公開済みのシートを元に戻して、公開を取り消すことで他のユーザーが利用できないようになります。




この機能は Kubernetes では使用できません。

次の手順を実行します。

1. アプリ概要から、をクリックしてシートを表示します。
2. [自分が公開したもの] で目的のシートを見つけます。
3. シートをロングタッチ/右クリックして、[公開を取り消す] を選択します。
[シートの公開を取り消す] ダイアログが表示されます。
4. [公開を取り消す] をクリックします。
するとシートの公開が取り消され、[自分が公開したもの] から[マイ ストーリー] に移動します。

これで、アプリの他のユーザーはこのシートを使用できなくなります。



をクリックして、[シートの公開を取り消す] を選択するか、シートナビゲーターでシートをロングタッチ/右クリックすることにより、シートの公開を取り消すこともできます。

アプリのベース シートへのシートの追加

自身が所有する公開済みのシートまたはコミュニティシートの両方の公開済みのシートを承認して、アプリのベースシートに追加することができます。ベースシートに追加されたシートは、公開済みのシートとは違い、アプリが複製またはエクスポートされるときに含まれます。シートをベースシートに追加すると、アプリのベースシートをコラボレーションして開発することができます。




この機能は Kubernetes では使用できません。

次の手順を実行します。

- アプリで、コミュニティシートまたは公開済みのシートの1つを右クリックして、[Approve] (承認) を選択します。

これで、このシートはアプリのベースシートに含まれました。



また、 をクリックするか、[Approve] (承認) を選択するか、あるいはシートナビゲーターでシートをロングタッチ/右クリックすることによって、シート表示にシートを追加することもできます。

アプリのベースシートからのシートの削除

元々アプリ内にあったベースシート、およびベースシートに含むよう承認されたベースシートの両方とも、アプリから削除することができます。ベースシートを削除するとき、シートを自分が公開した場合はアプリの[自分が公開したもの]セクションに移動し、別のユーザーが公開した場合は[コミュニティ]セクションに移動します。シートが別のユーザーに属していた場合は、そのユーザーが再度所有者になります。アプリが複製またはエクスポートされる場合には、ベースシートから削除されたシートは含められません。



この機能は Kubernetes では使用できません。

次の手順を実行します。

- アプリでベースシートを右クリックして、[承認しない]を選択します。

シートは、アプリの[自分が公開したもの]セクションまたは[コミュニティ]セクションに移動します。



また、☰ をクリックして[承認しない]を選択するか、あるいはシートナビゲーターでシートをロングタッチ/右クリックすることによって、シート表示でシートを削除することもできます。

ストーリーの公開

作成したストーリーを公開して他のユーザーが閲覧できるようにすることができます。



ストーリーは、すでに公開済みのアプリの一部としてのみ公開できます。



この機能は Kubernetes では使用できません。

次の手順を実行します。

1. アプリ概要から、📺 をクリックしてストーリーを表示します。
2. 公開したいストーリーをロングタッチ/右クリックして、[公開]を選択します。
[ストーリーの公開]ダイアログが表示されます。
3. [公開]をクリックします。

ストーリーが公開され、[マイストーリー]から[自分が公開したもの]に移動します。

同じアプリへのアクセス権を持つ他のユーザーは、[コミュニティ]セクションから公開済みのストーリーを閲覧できます。



ストーリーテリングビューのストーリーは、📺 をクリックして☰[ストーリーの公開]を選択するか、ストーリーナビゲーターのストーリーをロングタッチ/右クリックすることによって公開することもできます。


ストーリーの公開中止

公開済みのストーリーを元に戻して、公開を取り消すことで他のユーザーが利用できないようにできます。




この機能は Kubernetes では使用できません。

次の手順を実行します。

1. アプリ概要から、をクリックしてストーリーを表示します。
2. [自分が公開したもの] で目的のストーリーを見つけます。
3. ストーリーを右クリック/ロングタッチして、[公開を取り消す] を選択します。
[ストーリーの公開を取り消す] ダイアログが表示されます。
4. [公開を取り消す] をクリックします。
するとストーリーの公開が取り消され、[自分が公開したもの] から[マイストーリー] に移動します。

これで、アプリの他のユーザーはこのストーリーを使用できなくなります。



ストーリーの公開は、をクリックして[ストーリーの公開を取り消す] を選択するか、ストーリーナビゲーターのストーリーをロングタッチ/右クリックすることにより、取り消すことができます。

アプリのベースストーリーへのストーリーの追加

自身が所有する公開済みのストーリーまたはコミュニティストーリーの両方の公開済みのストーリーを承認して、アプリのベースストーリーに追加することができます。ベースストーリーに追加されたストーリーは、公開済みのストーリーとは違い、アプリが複製またはエクスポートされるときに含まれます。ストーリーをベースストーリーに追加すると、アプリのベースストーリーをコラボレーションして開発することができます。




この機能は Kubernetes では使用できません。

次の手順を実行します。

- アプリで、コミュニティストーリーまたは公開済みのストーリーの1つを右クリックして、[承認] を選択します。

これでアプリのベースストーリーにストーリーが含まれます。



ストーリーの追加は、ストーリーテリングビューで をクリックして[承認] を選択するか、ストーリーナビゲーターのストーリーをロングタッチ/右クリックしても実行できます。

アプリのベースストーリーからのストーリーの削除

元々アプリ内にあったベースストーリー、およびベースストーリーに含むよう承認されたベースストーリーの両方とも、アプリから削除することができます。ベースストーリーを削除するとき、ストーリーを自分が公開した場合はアプリの **[自分が公開したもの]** セクションに移動し、別のユーザーが公開した場合は **[コミュニティ]** セクションに移動します。ストーリーが別のユーザーに属していた場合は、そのユーザーが再度所有者になります。アプリが複製またはエクスポートされた場合には、ベースストーリーから削除されたストーリーは含められません。




この機能は Kubernetes では使用できません。

次の手順を実行します。

- アプリでベースストーリーを右クリックして、**[Unapprove]** (承認しない) を選択します。

ストーリーは、アプリの **[自分が公開したもの]** セクションまたは **[コミュニティ]** セクションに移動します。



ストーリーの削除は、ストーリービューで  をクリックして **[Unapprove]** (承認しない) を選択するか、ストーリーナビゲーターのストーリーをロングタッチ/右クリックしても実行できます。

3.3 Qlik Sense Mobile の Qlik Sense Enterprise ストリームへの公開

Qlik Sense Enterprise でストリームに公開される Qlik Sense アプリとマッシュアップは、Qlik Sense Mobile アプリで表示可能です。

Qlik Sense Mobile アプリをインストール済みのユーザーは、必要なアクセス権限が与えられていればストリームにおいて Qlik Sense アプリを操作できます。

Qlik Sense アプリは通常、Qlik Sense Enterprise サーバーに接続されている Web ブラウザーで開発します。Qlik Sense 管理者がアプリまたはマッシュアップを公開すると、それは Qlik Sense Mobile アプリでも使用可能になります。Qlik Sense Mobile アプリからマッシュアップにアクセスするには、Qlik Sense November 2018 が必要です。

管理者は QMC でアクセス権限を構成します。さらに、管理者は Qlik Sense Mobile アプリで Qlik Sense アプリをストリームからダウンロードできるかどうかを構成できます。Qlik Sense をダウンロードすると、オフラインでも表示できます。



オフラインアクセスでの Qlik Sense アプリのダウンロードは現在、iOS、および Qlik Sense Mobile for BlackBerry アプリでのみサポートされています。

モバイルアプリ用に公開できるようにするため Qlik Sense Mobile アプリをインストールする必要はありません。ただし、モバイルアプリで使用する場合はすべての Qlik Sense アプリをテストすることを推奨します。



この機能は Kubernetes では使用できません。

3.4 クラウド ハブの公開

Qlik Sense Enterprise ハブへのアクセス権を持たないユーザーがアプリを使用できるようにする場合は、アプリをクラウドハブに公開できます。

マルチクラウドが有効化された Qlik Sense 展開で、Qlik Sense 管理者はクラウドハブ内にタグを作成します。次に、Qlik Sense 管理者はアプリのストリームを作成します。アプリのプロパティで選択したタグ付きのアプリを、配布ポリシーによってストリームに公開または移動すると、Qlik Sense でアプリがクラウドハブにコピーされます。

タグ

タグは、クラウドハブ内でアプリをグループ化する方法です。

該当する権限を持つアプリ開発者は、タグを付けてアプリを公開できます。タグは、展開に応じて複数のクラウドハブ内に配置できます。タグ付きアプリは、ストリーム内のアプリが更新されると必ず自動的に更新されます。

適切なアクセス権を持っている消費者は、クラウドハブ内でタグ別にアプリを表示できます。アプリの消費者はアプリを操作できます。例えば、データ内で選択を行うことができます。ただし、それ以上アプリを更新または開発することはできません。例えば、シート、チャート、およびストーリーを作成することはできません。アプリの消費者は自身が行った選択について、チャートへのリンクをアプリ内で共有できます。

アプリの消費者はさらにプライベートコレクションを作成して、アプリを整理することができます。アプリの消費者が作成したプライベートコレクションは、彼ら自身のみが表示できます。



Qlik Sense 管理者は、ストリームからコレクションへの配布に必要な、アプリのプロパティをさらに設定できます。

ストリームとタグ

Qlik Sense 管理者は配布ポリシーを作成して、アプリのプロパティが 1 つ以上のタグ付きでクラウドハブに追加された、公開済みのアプリを配布できます。

アプリを Qlik Sense Enterprise 内のストリームに公開すると、配布ポリシーによって、タグ付きのアプリを受け取るターゲットクラウドハブが指定されます。Qlik Sense Enterprise ハブでの公開時に、宛先のクラウドハブとタグを制御するアプリのプロパティを設定できます。アプリのプロパティを公開または変更すると必ず、Qlik Sense Enterprise でアプリがストリームからクラウドハブにタグ付きでコピーされます。各配布の宛先は、Qlik Sense 管理者が管理する配布ポリシーによって制御されます。

アプリは 1 つのストリームにしか公開できませんが、複数のタグ付きで複数のクラウドハブに公開できます。



管理者はストリームポリシーの最後の同期の時間を確認できます。

組織によっては、単にアプリを削除するのではなく、配布ポリシーが設定されていないアーカイブストリームにアプリを移動する方が適している場合があります。

コレクション内のタグ付きのアプリは、その他の Qlik Sense Enterprise ストリーム内のアプリのように、Qlik Sense Enterprise ハブ内で変更できます。Qlik Sense Enterprise ハブでは次の操作が可能です。

- ストリーム内のアプリを複製する。
- ストリーム内のアプリを再公開する。
- アプリのカスタム プロパティを管理する。
- [公開済み]のアプリを編集する、または開く。

Qlik Sense Enterprise に開いたアプリでは、次の操作が可能です。

- 個人用のシートおよびストーリーを公開する、および公開を取り消す。
- ベースシートおよびストーリーをアプリに追加する、またはアプリから削除する。

アプリをタグ付きでクラウドハブに公開する場合のベストプラクティスと制限事項

タグ付きで公開されたアプリには、以下のベストプラクティスと制限事項があります。

- タグ付きで公開されたアプリは読み取り専用です。コレクションユーザーは、アプリにプライベートまたはコミュニティのシートやストーリーを作成しても、アプリに変更を行うことはできません。クラウドハブ内で直接アプリを使用して作業する場合は、アプリをエクスポートしてからクラウドハブにインポートします。
- On-Demand アプリはコレクションに対応していません。
- Qlik Cloud Services に公開されたアプリでは、アプリの拡張機能に対応していません。拡張機能を使用するビジュアライゼーションを Qlik Cloud Services で開くことはできません。アプリの消費者は、ビジュアライゼーションが見つからなかったことを示すメッセージを受け取ります。

タグ付きのクラウドハブへのアプリの公開

アプリは、書き込みアクセス権を持っているタグ付きのクラウドハブに公開できます。これはストリームへの公開と同時に実行します。すでにストリーム内にあるアプリでも、タグ付きのクラウドに公開できます。

アプリを Qlik Sense Enterprise 内のストリームに公開すると、Qlik Sense 管理者が作成した配布ポリシーによって、カスタム アプリプロパティを使用してタグ付きのアプリを受け取るターゲットクラウドハブが指定されます。アプリをストリームに公開するときには、公開先のクラウドハブとタグを制御するとともに、アプリへのアクセスを制御できます。また、アプリのプロパティをすでにストリーム内に存在する公開済みアプリに適用することもできます。これらのプロパティを設定すると、Qlik Sense では選択したタグ付きの選択したクラウドハブに、ストリーム内のアプリがコピーされます。

展開に複数のクラウドハブが含まれている場合は、その1つを選択する必要があります。



制限されているデータを公開しないようにするには、アプリを公開する前に、セクションアクセス設定が含まれるすべての添付ファイルを削除します。

添付したファイルは、アプリが公開されるときに含まれます。公開済みアプリがコピーされると、添付ファイルがそのコピーに含まれます。ただし、添付したデータファイルにセクションアクセス制限が適用されている場合、ファイルがコピーされるときにセクションアクセス設定が保持されません。そのため、コピーしたアプリのユーザーは、添付ファイルのすべてのデータを表示することができます。

公開済みのアプリは、適用されているアプリのプロパティを削除することにより、クラウドハブから削除できます。アプリを削除すると、そのアプリはクラウドハブのからも削除されます。

タグ付きのクラウドハブへのアプリの公開



タグ、公開先のクラウドハブ、およびユーザーグループのアクセスカスタムプロパティが Qlik Sense 管理者によって指定されます。これらの名前は、この手順で使用されている名前とは異なる場合があります。

次の手順を実行します。

1. Qlik Sense Enterprise ハブで [作業] のアプリを右クリックして、[公開] を選択します。
2. [ストリーム名] ドロップダウンリストでストリームを選択します。



1 つのストリームのみに対するアクセス権がある場合は、ドロップダウンリストが表示されません。



同じ名前を持つ多数のアプリをストリームに公開することは可能です。同じ名前を持つ公開済みのアプリが 1 つのストリーム内にある場合は、Qlik Sense がそれを示します。

4. オプションで、[アプリ名] 項目でアプリの名前を変更できます。この項目に、ハブから選択したアプリの名前が表示されます。
5. [管理] をクリックします。
6. アプリのプロパティから *collections* を選択してタグを選択します。
7. 展開に複数のクラウドハブが含まれている場合は、*distribution* を選択してクラウドハブを選択します。
8. 展開でアクセス制御を使用している場合は、*groupswithaccess* を選択してユーザーグループを選択します。
9. [適用] をクリックします。
10. [公開] をクリックします。

これで公開済みのアプリは、選択したストリーム、および [プロパティの管理] ダイアログで選択したタグ付きクラウドハブにも配置されます。[公開済み] に、ストリーム内の公開済みアプリにリンクする、公開済みアプリのエントリが表示されます。

Qlik Sense 管理者が設定した配布ポリシーによって配布が必要であると判断された場合、アプリはクラウドハブに配布されます。アプリは、[コレクション] アプリカスタム プロパティで指定されているタグにより使用できます。



アプリのサイズによっては、クラウドハブにアプリが表示されるまで数分かかる場合があります。

ストリーム内の公開済みアプリをコレクションに公開する



タグ、公開先のクラウドハブ、およびユーザーグループのアクセスカスタムプロパティがQlik Sense 管理者によって指定されます。これらの名前は、この手順で使用されている名前とは異なる場合があります。

次の手順を実行します。

1. ストリームでアプリを右クリックして、[プロパティの管理] を選択します。
2. アプリのプロパティで、プロパティのリストから *collections* を選択してタグを選択します。
3. 展開に複数のクラウドハブが含まれている場合は、プロパティのリストから *distribution* を選択してクラウドハブを選択します。
4. 展開でアクセス制御を使用している場合は、プロパティのリストから *groupswithaccess* を選択してユーザーグループを選択します。
5. [適用] をクリックします。

これで公開済みのアプリは、選択したストリーム、および [プロパティの管理] ダイアログで選択したタグ付きクラウドハブにも配置されます。


Qlik Sense 管理者が設定した配布ポリシーによって配布が必要であると判断された場合、アプリはクラウドハブに配布されます。アプリは、[コレクション] アプリカスタム プロパティで指定されているタグにより使用できます。



アプリのサイズによっては、クラウドハブにアプリが表示されるまで数分かかる場合があります。

公開済みアプリのタグ、クラウドハブ、またはユーザーアクセスの設定を変更する

次の手順を実行します。

1. ストリームでアプリを右クリックして、[プロパティの管理] を選択します。
2. 新しいタグまたはクラウドハブにアプリを追加したり、ユーザーグループアクセスを追加したりするには、アプリのプロパティを選択し、新しい値を選択します。
3. タグまたはクラウドハブからアプリを削除するか、グループアクセスを削除するには、プロパティ名にある  をクリックします。
4. [適用] をクリックします。

これで公開済みのアプリは、選択したタグ付きの選択したクラウドハブに配置されます。


Qlik Sense 管理者が設定した配布ポリシーによって配布が必要であると判断された場合、アプリはクラウドハブに配布されます。アプリは、[コレクション] アプリカスタム プロパティで指定されているタグにより使用できます。



アプリのサイズによっては、クラウドハブにアプリが表示されるまで数分かかる場合があります。

アプリからのタグの削除

次の手順を実行します。

- Qlik Sense Enterprise ハブでアプリを右クリックして、[プロパティの管理] を選択します。タグで  をクリックして、[適用] をクリックします。

選択したタグからアプリが削除されます。

コレクションに対するアプリの段階的な公開

この例では、アプリをコレクションに公開し、タグ付きでクラウドハブに表示する手順を段階的に説明しています。この例では、組織が Qlik Cloud Services と Qlik Sense Enterprise on Kubernetes の両方を使用し、複数のクラウドハブがあります。管理者はタグおよびクラウドハブの両方に関するプロパティを設定しています。組織の営業チーム用として、「cloud services」(クラウドサービス) という名前の Qlik Cloud Services クラウドハブに、2つのタグ付きでアプリを公開する必要があります。

前提条件

- 管理者は、「[配布ポリシー - 例](#)」に記載されている配布ポリシーを設定済みである。
- 公開するアプリがある。この例では、「[基礎から始める](#)」から入手できる *Beginner's tutorial* アプリを使用します。
- 選択されたタグ付きでアプリが公開されていることを確認するため、クラウドハブへのアクセス権を持っている。

タスク

- Qlik Cloud Services クラウドハブ上に *US* および *Sweden* タグ付きで *Beginner's tutorial* を公開します。

Beginner's tutorial (初心者向けチュートリアル) を *US* および *Sweden* タグ付きで公開する

次の手順を実行します。

1. ハブで *Beginner's tutorial* を右クリックして [公開] を選択します。
2. [ストリーム名] ドロップダウン リストからストリームを選択します。
3. [管理] をクリックします。
4. Qlik Sense Enterprise cloud ハブを選択するには、ドロップダウン リストから *distribution* を選択し、[cloud services] (クラウドサービス) の値を選択します。
5. タグを設定するには、ドロップダウン リストから *collections* を選択し、値として *US* と *Sweden* を選択します。
6. グループにアクセス権を設定するには、ドロップダウン リストから *groupswithaccess* を選択し、[Sales] (営業) を選択します。
7. [適用] をクリックします。
8. [公開] をクリックします。

アプリがストリームに公開されます。Qlik Sense は次に、タグ *US* および *Sweden* の *cloud service* (クラウドサービス) クラウドハブでアプリを公開します。クラウドハブにログインし、アプリがタグ付きで使用可能になっていることを確認します。

クラウドハブからのアプリの段階的な削除

この例では、クラウドハブからアプリを削除する手順全体を示します。この例では、[*cloud service*] (クラウドサービス) クラウドハブに、タグ *US* および *Sweden* 付きで公開されたアプリが不要になっており、クラウドハブから削除する必要があります。アプリ上でタグおよびクラウドハブのプロパティを削除することによって、クラウドハブからアプリを削除する必要があります。

前提条件


- 管理者は、「[配布ポリシー-例](#)」に記載されている配布ポリシーを設定済みである必要があります。
- 例「[コレクションに対するアプリの段階的な公開 \(page 51\)](#)」を使用して、クラウドハブにアプリを公開しておく必要があります。
この例では、「[基礎から始める](#)」から入手できる *Beginner's tutorial* アプリを使用します。
- アプリがクラウドハブから削除されたことを確認するには、クラウドハブへのアクセス権を持っている必要があります。

タスク

- *Beginner's tutorial* を別のストリームに移動します。

別のストリームへの *Beginner's tutorial* の移動

次の手順を実行します。

1. *Beginner's tutorial* を右クリックして [**プロパティの管理**] を選択します。
2. 各値にある  をクリックして、プロパティ「*US*」、「*Sweden*」、「*collections*」、および「*Sales*」を削除します。
3. [**適用**] をクリックします。

アプリがクラウドハブから削除されます。再度カスタムプロパティをアプリに追加すると、クラウドハブに再公開できます。

3.5 Qlik Sense プラットフォーム間での公開

次の Qlik Sense プラットフォーム間で直接公開することはできません。

- Qlik Sense Enterprise
- Qlik Sense Cloud Business
- Qlik Sense Cloud Basic
- Qlik Sense Desktop

代わりに、プラットフォームからアプリのコピーをダウンロードして、そのコピーを他のプラットフォームにアップロードする必要があります。その後、コピー先のプラットフォームでアプリを公開することができます。



この機能は *Kubernetes* では使用できません。



Qlik プラットフォーム間でどのようにデータが共有されているかを確認するには、弊社の [一般データ保護規則 \(GDPR\)](#) に対するコンプライアンスを参照してください。

アプリを別のプラットフォームにコピーするときには、以下を考慮してください。

- 相手先プラットフォームでデータ接続を再作成する必要があります。
- 相手先プラットフォームで、一部の機能がサポートされない場合があります。例えば、Qlik Sense Enterprise の拡張機能がアプリと共にダウンロードされますが、これを Qlik Sense Cloud で再作成することはできません。
- 特定の操作の実行に適した権限が必要です。例えば、Qlik Management Console からアプリのインポートおよびエクスポートができるのは、Qlik Sense Enterprise 管理者のみです。



Qlik Sense Desktop でアプリを公開することはできません。

ソースプラットフォーム	ダウンロードするには
Qlik Sense Enterprise	QMC を使用してコンピューターにアプリをエクスポートします。
Qlik Sense Cloud Business	グループ ワークスペースのアプリを右クリックしてコンピューターにアプリをダウンロードします。
Qlik Sense Cloud Basic	個人用ワークスペースのアプリを右クリックしてコンピューターにアプリをダウンロードします。
Qlik Sense Desktop	C:\ユーザー\ユーザー名\Documents\Qlik\Sense\Apps からアプリをコンピューターにコピーします。

相手先プラットフォーム	アップロードするには
Qlik Sense Enterprise	QMC を使用してコンピューターからアプリをインポートします。
Qlik Sense Cloud Business	グループ ワークスペースの [新規 アプリ] をクリックして、アプリをアップロードします。
Qlik Sense Cloud Basic	個人用ワークスペースの [新規 アプリ] をクリックして、アプリをアップロードします。
Qlik Sense Desktop	アプリをコンピューターから C:\ユーザー\ユーザー名\Documents\Qlik\Sense\Apps に移動します。

3.6 Qlik Sense の Qlik NPrinting レポート

レポートは Qlik NPrinting から Qlik Sense ハブに配布できます。

受信者は、Qlik Sense および Qlik NPrinting 両方で Active Directory ユーザーグループの一部であるユーザーの名前が付けられている必要があります。レポートは個人用であり、配布されたユーザーしか閲覧することができません。

ハブで [レポート] をクリックすると、レポートを閲覧できます。レポートの形式には PDF、Excel、Word、PowerPoint、PixelPerfect、および HTML が含まれます。



現在、Qlik NPrinting レポートを Qlik Sense ハブから削除することはできません。



レポートを Qlik Sense 検索で見つけることはできません。



この機能は Kubernetes では使用できません。

Qlik NPrinting レポートを Qlik Sense に配布する

Qlik NPrinting レポートの Qlik Sense への配布をスケジュールできます。

要件

Qlik NPrinting レポートの Qlik Sense への配布を有効にし、構成するための必要条件:

- Qlik NPrinting のバージョンが 17.1 以降である。
- Qlik Sense システム管理者によって、Qlik Sense QMC から証明書 (client.pfx、server.pfx および root.cer) がエクスポートされている。証明書のエクスポート時に、秘密のキーを含める必要があります。
- 証明書は、Qlik NPrinting 管理者によって、Qlik NPrinting scheduler service が稼働するすべてのコンピューターにインストールされています。
- ファイアウォールルールが作成され、Qlik Sense QRS のポート 4243 での受信接続が許可されました。
- Qlik NPrinting でのレポートの配布を構成するには、[公開] タスクが承認された Qlik NPrinting scheduler service ユーザーである必要があります。同様に、次の情報も必要です。
 - Qlik Sense サーバーのセントラル ノードアドレスこれは、[ノード] の下の Qlik Sense QMC で入手できます。



証明書のインストール方法、および Qlik NPrinting から Qlik Sense へのレポート配布を構成する方法の詳細については、Qlik NPrinting ヘルプを参照してください。

次の手順を実行します。

1. [公開] タスクが承認されているユーザーとして Qlik NPrinting にログインします。
2. [転送先]、[ハブ] の順に選択します。Qlik Sense ハブを転送先として追加します。Qlik Sense サーバーのセントラル ノードアドレスが必要です。
3. [公開] タスクを作成し、Qlik NPrinting アプリ、レポート、ユーザー、スケジュール、そして転送先としてハブを指定します。

Qlik NPrinting 内の Qlik Sense アプリに接続する

Qlik NPrinting から Qlik Sense アプリへの接続を作成することができます。その後、Qlik NPrinting 内でデータを使用してレポートを作成および設計できます。

要件

Qlik NPrinting から Qlik Sense アプリへの接続を有効にし、作成するための必要条件:

- Qlik NPrinting から Qlik Sense ヘレポートを配布する場合と同じ証明書の必要条件が適用されます。ただし、証明書がすべての Qlik NPrinting Engine コンピューターにインストールされている必要があります。
- ファイアウォールルールが作成され、Qlik Sense QRS のポート4243 での受信接続が許可されました。
- Qlik NPrinting で Qlik Sense アプリへの接続を作成するには、**[接続]** タスクが承認された Qlik NPrinting ユーザーである必要があります。同様に、次の情報も必要です。
 - Qlik Sense サーバーのプロキシアドレス(フル コンピューター名)。
 - Qlik Sense アプリID。これは、**[アプリ]** の下の Qlik Sense QMC で入手できます。
 - Qlik Sense 管理者の Windows ドメインおよびユーザー名。これは、**[ユーザー]** の下の Qlik Sense QMC で入手できます。



証明書のインストール方法、および Qlik NPrinting から Qlik Sense アプリへの接続を構成する方法の詳細については、Qlik NPrinting ヘルプを参照してください。

Qlik Sense レポートへの接続を作成するには Qlik NPrinting で次のタスクを実行します。

1. **[接続]** タスクが承認されているユーザーとして Qlik NPrinting にログインします。
2. **[アプリ]** ドロップダウンリストを選択し、リストから**[アプリ]** を選択します。**[アプリの追加]** をクリックして、新しい Qlik NPrinting アプリを作成します。
3. **[アプリ]**、**[接続]** の順に選択します。**[接続の作成]** をクリックし、作成したアプリを選択し、その後、**[ソース]** として Qlik Sense をクリックします。接続の作成を終了するには、次の情報が必要です。
 - Qlik Sense サーバーのプロキシアドレス(フル コンピューター名)。
 - Qlik Sense アプリID。
 - Qlik Sense 管理者の Windows ドメインおよびユーザー名。

3.7 Qlik Sense 内の QlikView ドキュメント

ファイルを電子メールで配布したり、特定のフォルダーの場所に配布したりする代わりに、Qlik Sense ハブの QlikView ドキュメントにリンクを公開することができます。

この方法は、QlikView および Qlik Sense の **[Active Directory]** ユーザーグループの一部である特定のユーザーと QlikView ドキュメントを共有する場合に使用できます。QlikView では、管理者が Qlik Sense への配布を設定する必要があります。

要件

QlikView および Qlik Sense の要件

QlikView ドキュメントの公開を有効にするには、次の条件が必要です。

- QlikView のバージョンが 12.00 SR3 以降である。
- QlikView のインストールに、Publisher のライセンスが含まれる。
- システム管理者によって、Qlik Sense Management Console からそれぞれの QlikView Distribution Service (QDS) マシンに異なる証明書セット (*client.pfx*、*server.pfx*、*root.cer*) がエクスポートされている。
- Qlik Sense が共有コンテンツを使用できるように構成されている。
- QlikView AccessPoint へのサーバー接続が、マシン名を使用するように構成されている。

QlikView の証明書要件

QlikView の証明書セットを作成する場合、次の手順が必要です。

- 証明書は、QDS マシンのドメインを含むフルネームを使用して作成する必要があります。
- 証明書はパスワードで保護する必要があります。
- 秘密キーペアの作成が必要です。

構成要件

以下のトピックには、Qlik Sense ハブで QlikView ドキュメントへのリンクを公開する場合に必要な構成の詳細について記載されています。

- [Configuring Qlik Sense to allow users to publish a link to shared content](#) (共有コンテンツへのリンクの公開をユーザーに許可するための Qlik Sense の構成)
- [Configuring the QlikView Distribution Service with the Qlik Sense certificates](#) (Qlik Sense 証明書を使用した QlikView Distribution Service の構成)
- [Creating a task to publish a link to a QlikView document in the Qlik Sense hub](#) (QlikView ドキュメントへのリンクを Qlik Sense ハブで公開するタスクの作成)

Qlik Sense ハブでの QlikView ドキュメントへのリンクの公開


QlikViewManagement Console を使用して、Qlik Sense ハブで QlikView ドキュメントへのリンクを共有できます。QlikView ドキュメントを表示するには、ドキュメントが共有された特定のユーザーと同じ資格情報を使用して Qlik Sense ハブにログインします。**[QlikView documents]** でドキュメントへのリンクを選択して、QlikViewAccessPoint を新しいウィンドウで開きます。Qlik Sense の QlikView ドキュメントを表示する場合、変更は保存できません。






QlikView ドキュメントは、小型デバイス向けのモバイル表示では閲覧できません。

次の手順を実行します。


1. **Documents** タブをクリックします。
Source Document ページが開きます。

 公開できるのは、ソースドキュメントだけです。

2. QDS マシン インスタンスを展開して、共有するドキュメントを見つけます。
3. をクリックして、 新しいタスクを作成します。
4. **Distribute** タブで  をクリックして受信者を追加します。
5. **Named User** ユーザータイプを選択します。
6. をクリックして、 ユーザーを追加します。

 特定のユーザーは、QlikView および Qlik Sense の **[Active Directory]** ユーザーグループの一部でなければなりません。

7. **Document Information** タブで  をクリックして属性を追加します。
8. **Name** 項目に *ShowInSenseHub*、**Value** 項目に *true* と入力します。
9. **[Apply]** をクリックします。
タスクが起動し、Qlik Sense ハブの QlikView ドキュメントへのリンクが追加されます。

 QlikView ドキュメントのリンクは Qlik Sense ハブからは削除できません。

3 クラウド ハブでの他のユーザーとの共同作業

クラウド ハブは、コンテンツの開発 と他のユーザーとの共有 のためのコラボレーション環境です。

共有スペースを使用して、クラウドハブの他のメンバーと一緒にコンテンツを開発および共有することができます。また、クラウドハブのメンバーと個人のアプリを共有することもできます。

3.8 シート、ブックマーク、ストーリーへのアクセス権の付与

シート、ブックマーク、ストーリーをパブリックにして、自分のアプリのアクセス権を持っているユーザーがそれら要素を表示できるようにすることができます。

シート、ブックマーク、ストーリーへのアクセス権の付与 (page 58)

3.9 共有スペースでのコラボレーション

共有スペースは、クラウドハブ内のユーザー作成セクションで、コラボレーション開発でアプリを共有し、ビューアーのアクセス権を制御することができます。

共有スペースで作業する (page 59)

3.10 個人のアプリの共有

個人のアプリをクラウドハブの他のメンバーと共有し、アプリの表示を共有することができます。

クラウドハブでのアプリの共有 (page 66)

3.11 シート、ブックマーク、ストーリーへのアクセス権の付与

[アプリ概要] では、シート、ブックマーク、ストーリーを公開または非公開にすることができます。また、シートとストーリーの順序を変更することもできます。

[アプリ概要] に追加される新規アイテムは、必ずプライベートです。プライベートアイテムは、自分しか表示できません。公開シート、公開ブックマーク、公開ストーリーはだれでも見ることができます。アイテムを公開にすると、自分が所有者ではなくなります。アイテムを非公開にすると、自分が所有者となります。

シートとストーリーはドラッグして順序を変更することができます。



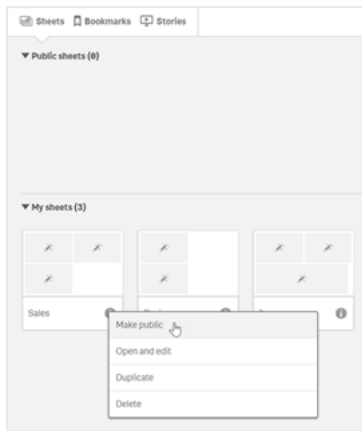
シートをドラッグして順序を変更できない場合は、グローバルメニューで[タッチ画面モード]を無効にします。

シートを公開する

これは、シート、ブックマーク、ストーリーに適用されます。

Do the following:

1. [アプリ概要] でアプリを開きます。
2. [マイ シート] で、公開するシートを見つけます。
3. そのシートを右クリックし、ドロップダウンで [公開する] を選択します。



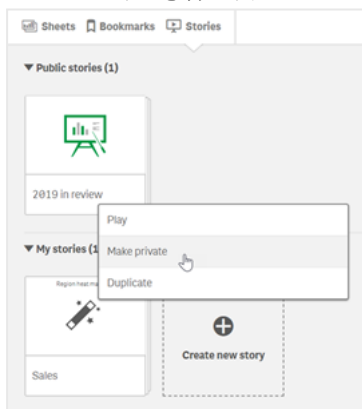
シートが公開されます。自分が所有者ではなくなります。

ストーリーを非公開にする

これは、シート、ブックマーク、ストーリーに適用されます。

Do the following:

1. [アプリ概要] でアプリを開きます。
2. [公開ストーリー] で、非公開にするストーリーを見つけます。
3. そのストーリーを右クリックし、ドロップダウンで [非公開する] を選択します。



自分がストーリー所有者になります。

3.12 共有スペースで作業する

共有スペースは、共同でアプリを開発し、アプリへのアクセスを制御するために使用するクラウドハブのセクションです。共有スペースは、[Explore] のスペース ドロップダウンを使用することで見つけることができます。

3 クラウド ハブでの他のユーザーとの共同作業

Professionalライセンスを所有しているユーザーは誰でもスペースを作成できます。スペース内のアプリには、複数のユーザーが、シート、ストーリー、ブックマークを追加できます。共有スペースは、メンバーに制限されています。スペースのアプリは、スペースメンバーのみ表示可能です。

メンバーが共有スペースに追加されると、そのメンバーには権限が付与されます。権限は、共有スペース内でメンバーが実施可能となる内容を定義しています。共有スペースには4つの権限があります。

- **所有者:**所有者は、スペースとそこに所属するメンバーを管理できるだけでなく、スペースにコンテンツを作成することができる最初の管理人です。
- **管理者:**スペースとそこに所属するメンバーを管理できるだけでなく、スペースにコンテンツを作成することができます。
- **編集可能:**アプリのコンテンツを追加、編集できます。スペースとそのメンバーシップを管理することはできません。
- **閲覧可能:**スペースでアプリを表示することはできますが、コンテンツの作成やスペースの管理はできません。

メンバーの権限を変更して、スペース内で別の役割を割り当てることや、スペースからメンバーを削除することもできます。

共有スペース内で直接新しいアプリを作成できます。また、自身の個人スペースから共有スペースにアプリを移動することで、他のメンバーがそのアプリを利用することもできます。

共有スペースを作成する

スペースの作成者がスペースの所有者となります。クラウドハブでは、スペースの所有者を変更することはできません。スペースの所有者は、Management Console で変更可能です。



スペースの名前はクラウドハブ内で一意である必要があります。

次の手順を実行します。

1. スペースのドロップダウンをクリックして、[スペースを追加] を選択します。
2. スペースの名前とスペースの説明を入力します。
3. [作成] をクリックします。

共有スペースへのメンバーの追加

メンバーは、所有者または[管理者]権限を持つメンバーによってスペースに追加可能です。

次の手順を実行します。

1. スペース内で、[メンバーを管理] をクリックします。
2. メンバーの名前を検索して、スペースに追加するメンバーを選択します。
3. メンバーに許可する権限を選択して、[追加] をクリックします。
4. [完了] をクリックします。

共有スペースの名前と説明を編集する

スペースの名前と説明を変更できます。

次の手順を実行します。

1. スペース内で、[**スペースの編集**] アイコンをクリックします。
2. 名前と説明を変更して、[**保存**] をクリックします。

共有スペースを削除する

スペースを削除できます。スペースを削除すると、そのスペース内のすべてのアプリも削除されます。スペースを削除できるのは、所有者または [**管理者**] 権限を持つユーザーのみです。

1. スペース内で、[**スペースの編集**] アイコンをクリックします。
2. [**削除**] をクリックします。
3. [**削除**] をクリックします。

共有スペースを利用したアプリの開発と共有

様々な方法でアプリを共同開発してクラウドハブの他のメンバーと共有することができます。共有スペースを使用するためのワークフローのサンプルは次のとおりです。

アプリを作成する

個人スペースにアプリを作成します。データソースを追加してデータモデルを作成した後、アプリのスケジュール済みのロードを作成します。

アプリの作成者は、アプリ内のデータを唯一管理できるユーザーなので、アプリを他のユーザーと共同開発する前に、データモデルを完成させる必要があります。

共有スペースを作成する

アプリを共同開発するため、クラウドハブに共有スペースを追加します。

アプリをスペースに移動します

アプリを共同で作業する準備が整った後、アプリを共有スペースに移動します。

スペース間のアプリの移動 (page 63)

スペースにユーザーを追加します

自身のスペースに共同編集者を追加して、[**編集可能**] 権限を付与します。共同制作者は Professional のライセンスを所有している必要があります。

スペース内で、共同でアプリを開発する

すべての [**編集可能**] 権限を持つユーザーは、シート、ストーリー、およびブックマークをアプリに追加可能です。アプリで公開するまでは、コンテンツは非公開です。

シート、ブックマーク、ストーリーへのアクセス権の付与 (page 58)

アプリを更新する

アプリのオーディエンスからフィードバックを受け取ることがあります。スペース内のアプリは、アプリ内のデータモデルまたはコンテンツへ変更することで、いつでも更新できます。

共有スペースからアプリを削除する

アプリが不要になった場合、クラウドハブから削除することができます。

スペースを削除する

スペースが不要になった場合、クラウドハブから削除することができます。

共有スペースでのアプリの使用

アプリは、共有スペース内で、クラウドハブの他のメンバーによって作成、開発、共有可能できます。

アプリは、個人スペースでアプリが作成および共有されると同じ方法で作成および開発可能です。スペースの権限と自分が持っているライセンスに応じて、スペース内でアプリを作成および開発できます。**閲覧可能**権限を持っている場合、スペース内でできることはアプリを表示することだけです。

権限とライセンスに基づいてアプリで実行可能な作業の詳細については、**共有スペースでの権限の管理 (page 64)** を参照してください。

共有スペースでのアプリの作成

ユーザーは、**[作成]** をクリックし、**[アプリの追加]** または **[アプリのアップロード]** をクリックすることにより、共有スペースでアプリを作成またはアップロードできます。アプリをスペースに複製することはできませんが、スペースに移動することはできます。

アプリに追加するタグは、クラウドハブ内の他のメンバーと共有されますが、他のメンバーがユーザーのアプリへのアクセス権を持っている場合に限られます。

アプリ所有者には、アプリにデータを追加する責任があります。アプリ所有者だけが、**データマネージャー** または **データロードエディター** でデータ接続とロードスクリプトを作成および変更できます。データ接続は、接続を作成したユーザーが所有します。接続の所有者のみが、所有する接続を編集できます。

共有スペースでのアプリへのコンテンツの追加

共有スペース内で**編集可能**または**管理者**権限を持っているユーザーは、共有スペースで、シート、ストーリー、ブックマークをアプリに追加できます。アプリに追加されたシート、ストーリー、ブックマークはプライベートです。プライベートコンテンツの作成者のみが、アプリでそのコンテンツを表示できます。共有する準備ができれば、作成者がそれらのコンテンツを公開します。

アプリの所有者だけがアプリでデータを編集でき、他の共有スペースのメンバーは次のコンテンツを作成、編集、削除できます。

- マスターアイテム
- 変数
- メディアライブラリのコンテンツ



ストーリー用に生成されたスナップショットは、他のユーザーと共有されません。

3 クラウド ハブでの他のユーザーとの共同作業

所有者、編集可能、または管理者権限を持っている共有スペースのメンバーは、次のアプリのプロパティを変更できます。

- 選択したテーマ
- 右から左に読むの有効化
- アプリの既定のブックマークとして設定
- シートタイトルのスタイル

共有スペースでのアプリのロード

アプリの所有者だけが、スペース内で手動でアプリをロードし、アプリのスケジュールされたロードを作成できます。

スペース間のアプリの移動

アプリは、共有スペース間とともに、共有スペースと個人スペースの間でも移動できます。

個人スペースに移動する場合、アプリはアプリ所有者の個人スペースに移動します。



アプリ所有者は、アプリの移動先スペースのメンバーになっている必要があります。

次の手順を実行します。

1. アプリで **•••** をクリックして、**[編集]** を選択します。
2. **[Space]** で新しいスペースを選択します。
3. **[保存]** をクリックします。

共有スペースでのアプリの複製

共有スペースでアプリを複製することができます。



アプリでデータのセクション アクセスが使用されている場合、アプリを複製することはできません。

次の手順を実行します。

- アプリで **•••** をクリックして **[複製]** を選択します。

スペースからのアプリのエクスポート

アプリは、スペースから .qvf ファイルとしてエクスポートできます。エクスポートされるアプリ内にアプリのプライベートシートはありません。



アプリでデータのセクション アクセスが使用されている場合、アプリをエクスポートすることはできません。

次の手順を実行します。

3 クラウド ハブでの他のユーザーとの共同作業

- アプリで***をクリックして、[データを含めてエクスポート] または [データを除いてエクスポート] を選択します。

共有スペースからのアプリの共有

スペースにメンバーを追加して**閲覧可能**権限を付与し、それらのメンバーがスペース内のアプリを表示できるようにすることができます。スペースからの個々のアプリを共有することはできません。閲覧者とスペースを共有しない場合は、アプリの閲覧者用に作成したスペースにアプリを移動することができます。また、自分の個人スペースにアプリを移動し、クラウドハブの特定のメンバーと共有することもできます。

共有スペースでの権限の管理

共有スペースの権限により、スペース内のアプリへのアクセスを制御します。権限により、共有スペース内のメンバーの役割が定義されます。権限は、共有スペースに追加されるときにメンバーに割り当てられます。

Professional ライセンスを付与されているクラウドハブのメンバーはスペースを作成できます。スペースを作成すると、**所有者**権限が割り当てられます。所有者は、新しいメンバーをスペースに追加し、権限を割り当てることができます。スペースの権限は [メンバーを管理] で管理します。[メンバーを管理] では、クラウドハブのメンバーを検索し、権限を割り当て、共有スペースに追加することができます。

メンバーの権限は、変更して、スペース内での新しい役割を付与することができます。**閲覧可能**権限を持っているユーザーは、権限を**編集可能**に変化することによってアプリ開発者に変更可能です。メンバーの権限は、スペースの所有者と**管理者**権限のメンバーが変更できます。

メンバーは、メンバー名の横にある削除アイコンをクリックすることにより、[メンバーを管理] でスペースから削除可能です。



共有スペースでの自分の権限は、[メンバーを管理] をクリックすることによって確認できます。[メンバーを管理] が表示されない場合は、そのスペースでの権限が**閲覧可能**または**編集可能**になっています。

スペースの権限とアプリの所有権

アプリを作成すると、アプリの所有者になります。アプリ所有者は、アプリにデータを追加することのできる唯一のユーザーです。また、アプリを手動でロードしたり、アプリのロードのスケジュールを作成したりできる唯一のユーザーでもあります。

スペースの権限はアプリの所有権より優先されます。アプリ所有者がアクセスする権限を持っていないスペースにアプリを移動すると、アプリ所有者は所有するアプリにアクセスできなくなります。スペースにおけるアプリ所有者の権限が**閲覧可能**に変更されると、アプリにデータを追加し、アプリをロードすることができなくなります。スペース間でアプリを移動するとき、アプリ所有者が引き続きアプリとデータモデルのロードを管理できるようにする場合は、移動先のスペースでアプリ所有者に必ず**閲覧可能**、**管理者**、または**所有者**権限を付与してください。

共有スペースでの権限

権限は、**所有者**および**管理者**ユーザーが割り当て可能です。共有スペースの権限でできる操作は、テナント管理者によって自分に Professional と Analyzer のどちらのライセンスが割り当てられているかによって異なります。

3 クラウド ハブでの他のユーザーとの共同作業

Professional ライセンスのメンバーの権限

次のテーブルに、Professional ライセンスのメンバーがスペースでできる操作の概要を示します。

共有スペースでの権限別のスペースアクション

アクション	Owner	管理者 です	編集可 能	閲覧可 能
スペースの名前を変更する	はい	はい		
スペースでアプリを新規作成する	はい	はい	はい	
別のスペースにアプリを移動する	はい	はい	はい	
スペースにアプリを移動する	はい	はい	はい	
スペースでアプリを複製する	はい	はい	はい	
スペース内のアプリをエクスポートする	はい	はい	はい	
スペースにメンバーを追加する	はい	はい		
スペースのメンバー権限を変更する(管理者、編集可能、 閲覧可能)	はい	はい		
スペースからメンバーを削除する	はい	はい		
スペースを削除する	はい	はい		



所有者、管理者、編集可能の権限によりユーザーはアプリをロードできますが、そのユーザーはアプリ所有者である必要があります。

共有スペースでの権限別のアプリアクション

アクション	Owner	管 理 者 で す	編 集 可 能	閲 覧 可 能
アプリを開く	はい	はい	はい	はい
アプリを削除する	はい	はい	はい	
データ ロード エディター、データ マネージャー、またはデータ モデル ビュー アーを開く	はい	はい	はい	
アプリの属性を編集する(名前、説明、タグの変更)	はい	はい	はい	
アプリのプロパティを編集する(テーマの選択、右から左に読むの有効化、ア プリの既定としてのブックマックの設定、シートタイトルのスタイル設定)	はい	はい	はい	
マスター アイテムと変数を作成、編集、削除する	はい	はい	はい	
メディア ライブラリのコンテンツを作成、編集、削除する	はい	はい	はい	

3 クラウド ハブでの他のユーザーとの共同作業

アクション	Owner	管理者です	編集可能	閲覧可能
アプリにプライベートシートを追加する	はい	はい	はい	
プライベートブックマークとストーリーをアプリに追加する	はい	はい	はい	はい
アプリでプライベートシート、ブックマーク、ストーリーを公開する	はい	はい	はい	
アプリでプライベートシート、ブックマーク、ストーリーを非公開にする	はい	はい	はい	
アプリでスナップショットを取得する	はい	はい	はい	はい



所有者、管理者、編集可能権限によりユーザーは、データロードエディター、データマネージャー、またはデータモデルビューアーを開くことができますが、そのユーザーはアプリ所有者である必要があります。

Analyzer ライセンスのメンバーの権限

Analyzer ライセンスのメンバーはスペースを作成または所有できません。次のテーブルに、Analyzer ライセンスのメンバーがスペースでできる操作の概要を示します。

共有スペースでの権限別のスペースアクション

アクション	管理者です	編集可能	閲覧可能
スペース内のアプリをエクスポートする	はい	はい	

共有スペースでの権限別のアプリアクション

アクション	管理者です	編集可能	閲覧可能
アプリを開く	はい	はい	はい
アプリを削除する	はい	はい	
アプリの属性を編集する(名前、説明、タグの変更)	はい	はい	
アプリのプロパティを編集する(テーマの選択、右から左に読むの有効化、アプリの既定としてのブックマークの設定、シートタイトルのスタイル設定)	はい	はい	
プライベートブックマークとストーリーをアプリに追加する	はい	はい	はい
アプリでスナップショットを取得する	はい	はい	はい

3.13 クラウド ハブでのアプリの共有

アプリを共有すると、クラウドハブの他のユーザーが洞察にアクセスできます。

3 クラウド ハブでの他のユーザーとの共同作業

アプリを共有するには、●●●をクリックして**[共有]**を選択します。アプリは、クラウドハブの個々のメンバーと共有するか、クラウドハブ内のメンバー全員と共有することができます。アプリを共有しているユーザーは**[詳細]**で確認できます。

クラウドハブのメンバーは共有アプリを操作できますが、シート、チャート、ストーリーなどのコミュニティコンテンツは作成できません。メンバーは、アプリ内のチャートへのリンクを、自分が選択したメンバーと共有できます。クラウドハブの他のメンバーが自分のアプリを編集可能にする場合は、そのアプリを共有スペースに移動し、クラウドハブのメンバーにそのスペースでの編集アクセス権を付与することができます。

クラウドハブで Qlik Sense Enterprise を使用する場合、アプリを共有することはコレクションにアプリを公開することと似ています。コレクションに公開されたアプリは、特定のユーザーに配布可能です。クラウドハブで共有されるアプリは、クラウドハブに対するアクセス権を持っているすべてのユーザーと共有されます。Qlik Sense Enterprise を持っており、特定のユーザーとアプリを共有する場合は、そのアプリを共有する代わりにコレクションに公開する必要があります。

4 エクスポートと印刷

シートとビジュアライゼーションをエクスポートし、印刷することで、Qlik Sense システム外の人々とインサイトを共有できます。例えば、サプライヤーと連携して、自身のデータに基づいて配送を決定できます。

シートとビジュアライゼーションをPDFs および画像としてエクスポートできます。

4.1 ビジュアライゼーションからのデータのエクスポート


ビジュアライゼーション内のデータをエクスポートし、.xlsx ファイルとして保存できます。



この機能は Kubernetes では使用できません。

Excel エクスポートファイルの行、列、セルの数の制限については、「[ExportData method](#)」(ExportData メソッド)を参照してください。

次の手順を実行します。

1. データのエクスポート元のビジュアライゼーションを右クリックします。
2.  [データのエクスポート] を選択します。
3. [エクスポート完了] ダイアログのリンクをクリックし、データファイルをダウンロードします。
4. ファイルを開きます (あるいはそのまま保存します)。

データは .xlsx ファイルにエクスポートされています。



軸が複数あるフィルターパネルでは、すべての軸または単一の軸を選択できません。

4.2 シートのエクスポート

Qlik Sense では、PDF ファイルとしてシート全体をエクスポートできます。




この機能は Kubernetes では使用できません。



個人クラウド(Qlik Sense Cloud Basic) で公開済みのアプリから、シートをPDFファイルにエクスポートすることはできません。アプリの公開を取り消してからエクスポートしてください。

デスクトップデバイス上のシートのエクスポート


次の手順を実行します。

1. エクスポートするシートを開きます。
2. をクリックして、[シートを PDF にエクスポート] を選択します。
[PDF 設定] ダイアログが表示されます。
3. 関連のドロップダウン メニューをスクロールし、選択した値をクリックして、[用紙サイズ] を選択します。
4. [解像度 (ドット/インチ)] の横の [+] または [-] をクリックして、解像度を適宜調整します。正確な値を入力することもできます。最小値は 72 dpi、最大値は 300 dpi です。
5. [縦] または [横] を選択して、[印刷の向き] を選択します。
6. [縦横比のオプション] で、次のように選択できます。
 - [現在のサイズを保持] では、ビジュアライゼーションはサイズ変更なしに PDF に挿入されます。PDF がビジュアライゼーションより小さい場合はトリミングされます。
 - [縦横比を変更してページに合わせる] では、ビジュアライゼーションの高さおよび幅がページ全体に広がるように変更されます。縦横比は適宜変更されます。
7. [エクスポート] をクリックし、画像の作成を開始します。

タッチ デバイス上のシートのエクスポート

モバイル デバイスからシート全体を PDF ファイルとしてエクスポートすることもできます。

次の手順を実行します。

1. エクスポートするシートを開きます。
2. をクリックして、[シートを PDF にエクスポート] を選択します。
[PDF 設定] ダイアログが表示されます。
3. 関連のドロップダウン メニューをスクロールし、選択した値をクリックして、[用紙サイズ] を選択します。
4. [縦] または [横] を選択して、[印刷の向き] を選択します。
5. [エクスポート] をクリックし、PDF の作成を開始します。
6. PDF をダウンロードするには、[ここをクリックして PDF ファイルをダウンロード] をクリックします。

4.3 ビジュアライゼーションのエクスポート

ビジュアライゼーションは画像または PDF ファイルとしてエクスポートできます。



この機能は Kubernetes では使用できません。

デスクトップ デバイスからのビジュアライゼーションのエクスポート

画像としてエクスポート

次の手順を実行します。

1. エクスポートするビジュアライゼーションを右クリックします。
2. ショートカットメニューで [画像としてエクスポート] を選択します。

ダイアログ **[画像設定]** が表示されます。

3. **[現在]** オプションを保持するか、**[カスタム]** オプションを使用して変更します。
 - **[現在]** を選択すると、元のチャートの幅と高さ、画面の解像度が dpi で表示されます。**[ファイルタイプ]** ドロップダウンメニューを使用して、.png や .jpeg から出力形式を選択できます。
 - **[カスタム]** をクリックすると、エクスポートした画像の寸法と解像度をカスタマイズできます。新たな画像の幅や高さを設定するには、**[+]** または **[-]** をクリックして幅や高さを調整します。正確な値を入力することもできます。最小値は 8 ピクセル、最大値は 2,000 ピクセルです。新たな画像の解像度を設定するには、**[解像度 (ドット/インチ)]** の両端にある **[+]** または **[-]** をクリックして、解像度を調整します。正確な値を入力することもできます。最小値は 72 dpi、最大値は 300 dpi です。
4. **[エクスポート]** をクリックし、画像の作成を開始します。

ベストプラクティス

ビジュアライゼーションを画像にエクスポートする場合に役立つヒントをいくつか紹介します。

- エクスポートできる画像の最大サイズは縦 2,000 x 横 2,000 ピクセルです。これより大きい画像をエクスポートする場合は、**[カスタム]** でサイズを縮小する必要があります。
- アスペクト比を維持するには、それに応じて **[幅 (ピクセル)]** と **[高さ (ピクセル)]** を変更する必要があります。
- 画像の解像度を上げるには、同じスケールで幅と高さの値を増やして画像のサイズを維持する必要があります。

PDF へのエクスポート

次の手順を実行します。

1. ショートカットメニューで **[PDF にエクスポート]** を選択します。**[PDF 設定]** ダイアログが表示されます。
2. 関連のドロップダウンメニューをスクロールし、選択した値をクリックして、**[用紙サイズ]** を選択します。
3. **[+]** または **[-]** をクリックすることにより、**[解像度 (ドット/インチ)]** を増減できます。正確な値を入力することもできます。最小値は 72 dpi、最大値は 300 dpi です。
4. **[縦]** または **[横]** ボタンを選択して **[方向]** を指定します。
5. **[縦横比のオプション]** で、次のように選択できます。
 - **[現在のサイズを保持]** では、ビジュアライゼーションはサイズ変更なしに PDF に挿入されます。PDF がビジュアライゼーションより小さい場合はトリミングされます。
 - **[縦横比を変更してページに合わせる]** では、ビジュアライゼーションの高さおよび幅がページ全体に広がるように変更されます。縦横比は適宜変更されます。
6. **[エクスポート]** をクリックし、画像の作成を開始します。



ビジュアライゼーションを用紙にコピーするには、PDF ファイルを印刷します。

モバイル デバイスからのビジュアライゼーションのエクスポート

ビジュアライゼーションをモバイル デバイスからエクスポートすることもできます。




Android デバイスでは、エクスポートされたビジュアライゼーションのダウンロードが新しいタブで開始されます。サーバーに信頼できる証明書がない場合は、ダウンロードのプロンプトではなく、セキュリティ警告が表示されます。

PDF へのエクスポート


モバイルデバイスからエクスポートする際、PDF へのエクスポートがデフォルトオプションです。

次の手順を実行します。

1. エクスポートするビジュアライゼーションをタップし、倍率を変更します。
2. をクリックして、[エクスポート] を選択します。
[ファイルのタイプを選択] ドロップダウンメニューで、デフォルトオプション [PDF] をそのまま使用します。
3. 関連するドロップダウンメニューをスクロールして [用紙サイズ] を選択し、選択した種類をクリックします。
4. [縦] または [横] を選択して、[印刷の向き] を選択します。
5. [エクスポート] を選択して、PDF の作成を開始します。
6. PDF をダウンロードするには、リンク [ここをクリックして PDF ファイルをダウンロード] をクリックします。

画像としてエクスポート

次の手順を実行します。

1. エクスポートするビジュアライゼーションをタップし、倍率を変更します。
2. をクリックして、[エクスポート] を選択します。
3. [ファイルのタイプを選択] ドロップダウンを開き、[PNG] または [JPEG] をクリックして、目的の画像形式を選択します。
4. [エクスポート] をクリックし、画像の作成を開始します。
5. 画像をダウンロードするには、リンク [ここをクリックして画像 ファイルをダウンロード] をクリックします。

制限事項

- ビジュアライゼーションは表示されている部分のみエクスポートされます。例えば、スクロールバーのあるテーブルをエクスポートする場合、テーブル全体が取得されるわけではありません。スクロールバーが表示されている画像および指定するウィンドウ領域のみが取得されます。
- 次のタイプのオブジェクトはエクスポートできません。
 - フィルター パネル
 - シートタイトル
 - ウィジェット
- ビジュアライゼーション拡張 (カスタム オブジェクト) およびインストールのセキュリティルールがエクスポートを許可するよう設定されている場合、ビジュアライゼーション拡張をエクスポートできます。

4.4 ストーリーのエクスポート

ストーリーは PowerPoint プレゼンテーションまたは PDF ファイルとしてエクスポートできます。ストーリーのエクスポートでは、ストーリー作成に使用される選択ステートと一緒にエクスポートされます。ストーリーの再生中に適用された選択はすべて無視されます。



この機能は Kubernetes では使用できません。



この機能はモバイルデバイスでは使用できません。

PowerPoint のプレゼンテーションとしてエクスポート

データストーリーテリング機能を使用して、ストーリーから PowerPoint プレゼンテーションを作成できます。

次の手順を実行します。

1. エクスポートするストーリーを開きます。
2. をクリックして、**[PowerPoint にストーリーをエクスポート]** を選択します。
[PowerPoint 設定] ダイアログが表示されます。
3. 既定の [スライドサイズ] と [解像度 (ドット/インチ)] を変更する場合は、2 つのドロップダウン リストから選択してください。
4. ダイアログの最後の行に設定の結果が表示されます。
5. [エクスポート] をクリックします。
PowerPoint プレゼンテーションの準備ができると、ダイアログにリンクが表示されます。
6. リンクをクリックします。
プレゼンテーションはブラウザの既定のダウンロード場所にダウンロードされます。
7. [キャンセル] をクリックしてダイアログを閉じます。

事前に構成された PowerPoint スライドサイズ

デフォルトでは、エクスポートされたプレゼンテーションのスライドサイズは、960 by 540 ピクセルの縦横比 9:16 のワイドスクリーン版で、解像度は 220 dpi (ドット/インチ) です。

PowerPoint スライドに 3 つの事前設定されたスライドサイズと縦横比を指定できます。また、カスタム オプションも選択できます。次に事前構成されたスライドサイズを示します。

事前に構成された PowerPoint スライドサイズ

事前に構成された スライド サイズ	縦横比	幅 (ピクセル)	高さ (ピクセル)
[標準]	4:3	960	720
[ワイドスクリーン] (既定)	16:9	960	540
[ワイドスクリーン]	16:10	960	600

220 および 150、96 dpi という3つの解像度を利用できます。

スライドの縦と横をカスタム設定する

エクスポートされたスライドの寸法は、[PowerPoint 設定] ダイアログの [スライド サイズ] ドロップダウン リストから [カスタム] を選択することで、事前設定された値以外の値にも設定できます。この操作を行うと、ダイアログが変化し、スライドの縦と横をピクセル単位で設定できるようになります。

次の手順を実行します。

- [+] または [-] を使用してスライドの縦/横の値を調整します。また、項目に直接、指定する値を入力することもできます。



アスペクト比を維持するには、[横 (ピクセル)] と [縦 (ピクセル)] を適切に調整してください。

PDF としてエクスポート

データストーリーテリング機能を使用して、ストーリーを PDF としてエクスポートできます。

次の手順を実行します。

1. エクスポートするストーリーを開きます。
2. をクリックして、 [PDF にストーリーをエクスポート] を選択します。
[PDF 設定] ダイアログが表示されます。
3. 既定の [用紙サイズ] を変更する場合は、2つのドロップダウン メニューから選択してください。
4. 画像の新たな解像度を設定するには、[解像度 (ドット/インチ)] の [+] または [-] をクリックして解像度を調整します。正確な値を入力することもできます。最小値は 72 dpi、最大値は 300 dpi です。
5. [縦] または [横] をクリックして [印刷の向き] を選択します。
6. [縦横比のオプション] では以下から選択できます。
 - [現在のサイズを保持] では、ビジュアライゼーションはサイズ変更なしに PDF に挿入されます。PDF がビジュアライゼーションより小さい場合はトリミングされます。
 - [ページに合わせる] では、ビジュアライゼーションの高さおよび幅がページ全体に広がるように変更されます。縦横比は適宜変更されます。
7. ダイアログの最後の行に設定の結果が表示されます。
8. [エクスポート] をクリックします。
PDF プレゼンテーションの準備ができると、ダイアログにリンクが表示されます。
9. PDF をダウンロードするには、[ここをクリックして PDF ファイルをダウンロード] をクリックします。
プレゼンテーションはブラウザの既定のダウンロード場所にダウンロードされます。
10. [キャンセル] をクリックしてダイアログを閉じます。

4.5 クラウド ハブでのアプリ コンテンツの共有 とダウンロード

アプリからの洞察を共有することができます。シートとビジュアライゼーションを PDF および画像としてダウンロードできます。ビジュアライゼーションのデータを xlsx ファイルとしてダウンロードすることもできます。他のユーザーが自分のクラウドハブへのアクセス権を持っている場合は、カスタム選択ステートのビジュアライゼーションへのリンクを共

有し、初期洞察をすばやく共有できます。

クラウド ハブでのビジュアライゼーションのダウンロード

クラウド ハブ アプリのビジュアライゼーションは、クラウド ハブで画像または PDF ファイルとしてダウンロードできます。ビジュアライゼーションのデータをxlsx ファイルとしてダウンロードすることもできます。ビジュアライゼーションをシートでダウンロードすると、**[ダウンロード]** ダイアログが開き、画像または PDF を設定することができます。

既定では、表示されているデータまたは詳細の現在のビューが画像に含まれます。画像に表示されるデータまたは詳細の量は、画像の幅と高さを調整することによってカスタマイズできます。変更を加えるにつれて、画像のプレビューが調整されます。Qlik Sense は .png 形式で画像を生成します。

PDF をダウンロードする場合は、用紙サイズを選択し、PDF の向きを横または縦に設定し、PDF 内のビジュアライゼーションのスケールを調整できます。変更を加えるにつれて、PDF のプレビューが調整されます。プレビューペインでは、プレビュー PDF をさらに回転、ダウンロード、印刷することができます。

ビジュアライゼーションでのデータのダウンロードを選択すると、**[ダウンロード]** ダイアログで、ダウンロード可能なxlsx ファイルが生成されます。Excel エクスポートファイルの行、列、セルの数の制限については、「[ExportData method](#)」(ExportData メソッド) を参照してください。

次のタイプのオブジェクトはエクスポートできません。

- フィルター パネル
- シートタイトル

さらに、マップ ビジュアライゼーションからデータをダウンロードすることはできません。



ビジュアライゼーション エクステンション(カスタム オブジェクト) は画像としてダウンロードできます。



ビジュアライゼーションをダウンロードするには、ブラウザでポップアップを許可する必要があります。

次の手順を実行します。

1. ビジュアライゼーションを右クリックして、**↓[ダウンロード]** をクリックします。
2. **[画像]**、**[PDF]**、または **[データ]** を選択し、ダウンロードを設定します。
3. **[ダウンロード]** をクリックします。

クラウド ハブでのビジュアライゼーションの共有

クラウドハブでのリンクにより、ビジュアライゼーションを現在の選択と共有することができます。これにより、アプリで発見した洞察を他のユーザーと共有することが可能になります。

ビジュアライゼーションを共有するには、ビジュアライゼーションを右クリックして**[共有]**を選択します。その後、ビジュアライゼーションに対して生成された URL を共有できます。

4.6 トラブルシューティング - エクスポート

このセクションでは、Qlik Senseでデータやストーリーをエクスポートするときに発生する可能性のある問題について説明します。



この機能は Kubernetes では使用できません。

匿名ユーザーがアプリデータをエクスポートできない

例えば、ビジュアライゼーションでは image/pdf/data としてエクスポートするなど、匿名ユーザーがデータをエクスポートできるようにする必要があります。

Possible cause

データをエクスポートする権限を匿名ユーザーに付与するためのセキュリティルールはありません。

Proposed action

匿名ユーザーがデータをエクスポートできるようにするには、セキュリティルール ExportAppData のコピーを作成し、そのコピーを変更して、resource.HasPrivilege("read") のみを [条件] に含めるようにします。詳しくは「[Qlik Sense にインストールされているセキュリティルール](#)」を参照してください。

ビジュアライゼーションを画像としてエクスポートできない

ビジュアライゼーションを画像としてエクスポートしようとしたが、失敗しました。

Possible cause

エクスポートしようとしているビジュアライゼーションのサイズが大きすぎます。エクスポートできる画像の最大サイズは縦 2,000 x 横 2,000 ピクセルです。

Proposed action

エクスポートする際は、[画像の設定] ダイアログで、[カスタム] ボタンを選択して画像のサイズを縦 2,000 x 横 2,000 ピクセルに設定します。

PDF ファイルに空白文字が含まれる

日本語、韓国語、簡体字中国語または繁体字中国語のラベルの付いたストーリーをエクスポートして作成された PDF ファイルに、空白文字が含まれます。

Possible cause

これらの言語が含まれるストーリーをエクスポートするには、適切なフォントを使用する必要があります。そうでない場合は、デフォルトの Times New Roman フォントが使用されます。Times New Roman は、日本語、韓国語、簡体字中国語または繁体字中国語をサポートしていません。

これは、ストーリーのタイトル オブジェクトまたはパラグラフ オブジェクト内のテキストにのみ適用されます。埋め込みのビジュアライゼーションには適用されません。

データ ロード エディタでアプリケーションの CollationLocale 設定に対して ja、ja-JP、ko、ko-KR、zh-CN、zh-TW が宣言されていると、エクスポート機能では次のリストの順序で、最初に使用可能なフォントを使用して PDF が生成されます。

使用可能なフォント

CollationLocale 言語	フォント スタック
簡体字中国語	SimSun、SimHei、FangSong
繁体字中国語	PMingLiU、MingLiU、Microsoft JhengHei、Microsoft JhengHei UI
日本語	Meiryo、Meiryo UI、Yu Gothic、Yu Gothic UI、MS UI Gothic
韓国語	Malgun Gothic、BatangChe

上記のリストでフォントが見つからない場合は、中国語、韓国語、または日本語を必要とするストーリーの文字が出力されません。ただの空白スペースになります。

Proposed action

使用している言語の PDF をエクスポートするためのフォントの 1 つをインストールします。フォントを選択することはできません。システムでは、テーブル内のフォントが所定の順序でのみ使用されるためです。

CollationLocale で設定した言語と同じ言語のラベルを使用していることを確認してください。これらの言語が異なる場合は、共通の文字のみが作成したレポートで正しく表示されます。

アラビア語やヘブライ語など、右から左へ表記する言語は、現在 ラベルでサポートされていません。

テーブルをエクスポートしたが、合計行が含まれていない

ビジュアライゼーションからテーブルをエクスポートしたが、エクスポートしたファイルには合計を計算する行が含まれていません。

Possible cause

テーブルに実際に含まれているデータのみがエクスポートされます。

Proposed action

エクスポートしたファイルで、合計の計算を再作成してください。

シートをエクスポートしたが、データ ビュー テーブルがビジュアライゼーションに戻った

シート全体をエクスポートしましたが、テーブル データに変更したすべてのビジュアライゼーションが元のビジュアライゼーションに戻りました。

Possible cause

ビジュアライゼーションのデータ ビューをエクスポートできません。

Proposed action

[データのエクスポート] オプションを使用して各ビジュアライゼーションのデータをエクスポートします。